

倉敷埋蔵文化財 センター年報 10

—平成 15・16 年度—

倉敷埋蔵文化財センター

2006.1

序 文

倉敷埋蔵文化財センターは、発掘調査をはじめ出土遺物の整理、収蔵、研究等を行う一方、ライフパーク倉敷内における生涯学習施設のひとつとして、各種講座や講演会等を通して埋蔵文化財に対する知識の普及にも尽力してまいりました。

今日の状況においては、こうした教育普及事業は、発掘調査事業とともに車の両輪として埋蔵文化財センターにおける重要な事業のひとつとなっており、地域の歴史・文化を今日に伝える埋蔵文化財への関心が高まりをみせる中、埋蔵文化財センターの役割はますます重要となってきております。

本書は、平成15年度と16年度の2カ年に実施した発掘調査事業ならびに教育普及事業について、その概要をまとめたものです。

発掘調査部門におきましては、開発に伴う発掘調査は減少してまいりましたが、当センターでは平成15・16年度にかけて、白鳳時代の寺院跡である市指定史跡日知庵寺について、史跡整備の基礎資料を得るための確認調査を実施し、新たに主要伽藍の一部を確認するなど、小規模な調査ながら多くの成果を得ることができました。

また教育普及部門では、出前講座や遺跡見学会、考古学講座などを積極的に実施しており、今後とも引き続き多くの市民にご参加いただき、さらに充実したものとなるよう努力して参る所存です。

本書が埋蔵文化財の保護保存の一助として、また当センターの事業に対する理解を深めていただくために、いささかでもお役に立つものであれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、埋蔵文化財センターの各事業の実施にあたりまして、ご指導ご協力を賜りました関係の皆様方に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年1月31日

倉敷埋蔵文化財センター
館長 福本 明

目 次

■平成15年度■

I 組織	1
II 事業の概要	1
III 教育普及事業報告	4
IV 調査事業報告	6
日烟廃寺確認調査報告	9
王墓山古墳確認調査報告	12
浅原寺跡確認調査報告	19
上東遺跡確認調査報告	20
日烟廃寺確認調査概要	21
上東遺跡確認調査報告	25
V 寄贈図書一覧	26

■平成16年度■

I 組織	39
II 事業の概要	39
III 教育普及事業報告	41
IV 調査事業報告	44
日烟廃寺確認調査概要	47
朝原寺跡発掘調査概要	50
祇園下台場跡確認調査報告	52
上東遺跡確認調査報告	56
V 寄贈図書一覧	57

例 言

1. 本書は、倉敷埋蔵文化財センターが平成15～16年度にかけて行った埋蔵文化財保護行政の概要についてまとめたものである。
2. 本書の執筆は、福本明・鍵谷守秀・小野雅明・藤原好二が分担し、調査事業報告についてはそれぞれ文責を記した。全体編集は鍵谷が行った。
3. 調査事業報告において、調査報告としているものについては本報告をもって正報告とする。
4. 調査地点位置図で使用した地形図は、倉敷市発行の50,000分の1の都市計画図を縮小したものであり、その他の位置図には、倉敷市発行の都市計画図を複製または縮小したものを使用した。
5. 本書に関する実測図・写真・遺物等は、全て倉敷埋蔵文化財センターで保管している。

平成 15 (2003) 年度

I 組織

埋蔵文化財センターは、文化財保護課の一施設として、市域内の埋蔵文化財に係る業務を一括して担当している。平成15年度における埋蔵文化財センターの組織及び人員は下記のとおりとなってい る。



文化財保護課	課長	大本 森
埋蔵文化財センター	館長	松浦 恵弘
	主任	鍵谷 守秀 (科学センター主任兼務)
	学芸員	小野 雅明
		藤原 好二
		中野 倫太郎
		片岡 弘至
	臨時職員	田中 玲子
		菅沼 みどり

(職名等は平成16年3月31日現在)

II 事業の概要

1. 調査事業

- (1) 事前協議 Fax等による埋蔵文化財包蔵地照会は101件で前年度を大きく上回り、開発指導要綱に基づく事前協議も95件と増加傾向を示している。
- (2) 発掘調査 今年度は本発掘調査2件、確認調査5件、立会調査16件を実施した。本発掘調査は、遺跡整備に伴い実施した王墓山古墳発掘調査と、国・県の補助を得て2ヵ年計画で実施した日畠廃寺発掘調査である。確認調査は5件中4件が宅地造成工事に伴うもので、最近の開発工事の傾向をよく表している。立会調査は、公共事業に伴うものが11件、民間の開発に伴うものが5件で、前年度に比べて件数はほぼ横ばいながら民間の開発に伴うものの占める割合が高かった。
- (3) 分布調査 「倉敷市遺跡地図(倉敷・庄地区)」の刊行に向け、庄地区の119遺跡を踏査し、遺跡台帳を作成後パソコンに入力した。
- (4) 整理作業 今年度実施した日畠廃寺発掘調査で出土した遺物を中心として、洗浄・註記・復元・実測等の作業を行った。また、これまでの調査で出土した未整理遺物の一部についても、同様の作業を行った。

2. 教育普及事業

(1) 主催講座等 春の遺跡見学会など、計8回の講座等を実施。延べ参加人数1,596人。

講座名	実施日	講座内容	参加人数
春の遺跡見学会⑧	5/11(日)	古代氏族 下道氏の遺跡をめぐる	30人
考古学体験講座①	7/12(土)	滑石で耳飾りをつくる	30人
夏休み親子考古学教室	7/31(木)	火おこしと土器によるご飯炊き	28人
ライフパークの集い	8/17(日)	ドキドキ発掘体験	1,403人
考古学体験講座②	11/8(土)	滑石で耳飾りをつくる	22人
秋の考古学講座 「吉備の後期古墳を学ぶ」	11/16(日)	吉備の大型横穴式石室墳	31人
	11/23(日)	吉備の陶棺	24人
	11/30(日)	7世紀の古墳	28人

(2) 出前講座等講師派遣 古代の土笛づくり等、計16回の派遣。延べ参加人数793人。

派遣内容	開催日	依頼団体	参加人数
出前授業 「蒼生歴史探検隊」	5/14(水)	倉敷市立蒼生小学校	102人
出前授業 「地域の遺跡について」	6/17(火)	倉敷市立北中学校	208人
出前授業 「土器によるご飯炊き」	6/17(火)	倉敷市立第四福田小学校	90人
郷土史講座 「倉敷の縄文遺跡」	6/20(金)	多津美公民館	27人
出前授業 「土器によるご飯炊き」	6/24(火)	倉敷市立上成小学校	55人
古代の土笛づくり	7/2(火)	倉敷不登校ネットワーク	16人
女性セミナー 「文化の基礎を学ぶ」	7/10(木)	玉島公民館	63人
古代の土笛づくり	7/23(水)	児島公民館	29人
古代の土笛づくり	7/29(火)	倉敷東公民館	36人
古代の土笛づくり	8/1(金)	富田児童クラブ	23人
古代の土笛づくり	8/6(水)	玉島公民館	13人
古代の土笛づくり	8/7(木)	唐琴公民館	22人
古代の土笛づくり	8/8(金)	倉敷市立乙島小学校	45人
古代の土笛づくり	8/21(木)	倉敷市立穂井田小学校	25人
古代の土笛づくり	8/26(火)	郷内公民館	25人
出前講座 「旧石器時代の瀬戸内海」	2/25(日)	(財)水島地域環境再生財團	14人

(3) 報告書等の刊行

倉敷埋蔵文化財センター年報9

A4判 本文52P 700部 平成16年3月刊行

(4) 資料の貸出

貸出期間		資料名	貸出先	使用目的
1	6月20日～7月20日	橋築遺跡全景カラースライド1点	(株) 雄山閣	『季刊考古学』第84号に掲載
2	7月26日～7月29日	王子ヶ岳南麓遺跡 出土石器14点	岡山県立 児島高等学校	オープンスクールの授業で活用
3	9月9日～12月17日	寒田窯跡群4号出土須恵器 6点・カラースライド1点	岡山県立 吉備路郷土館	平成15年度企画展
4	10月29日～1月16日	船倉貝塚カラースライド4点・寒田窯跡群4号カラースライド2点	岡山県古代吉備 文化財センター	WEB版遺跡地図「おかやま文化財情報GIS」に掲載
5	11月2日～11月27日	橋築遺跡全景カラースライド1点	(株) 第一学習社	高等学校日本史副教材 『日本史図表』に掲載

3. 利用者数

展示・講座等を含めた平成15年度の利用者数は下表のとおりである。総利用者数は10,858人で、昨年度比4.1%増となり、わずかではあるが2年連続の増加であった。

《平成15年度月別利用者数》

月	大人	子ども	講座等	計	開館日数	1日平均利用者数
4	346	340		686	25	27
5	402	825	132	1,359	26	52
6	343	368	325	1,036	25	41
7	364	299	208	871	26	33
8	1,123	1,245	181	2,549	27	94
9	390	229		619	23	27
10	360	543		903	26	35
11	500	181	112	793	24	33
12	298	135		433	22	20
1	306	95		401	22	18
2	351	210	14	575	24	24
3	349	284		633	25	25
合計	5,132人	4,754人	972人	10,858人	295日	36.8人

Ⅲ 教育普及事業報告

1. 春の遺跡見学会⑧

～古代氏族 下道氏の遺跡をめぐる～

日 時 平成15年5月11日（日）

講 師 藤原好二（倉敷埋蔵文化財センター）

対 象 一般

参加者 30人

最初に、真備町歴史民俗資料館を訪れ、町内の遺跡から出土した遺物等を見学した。続いて吉備の三大巨石墳の一つである箭田大塚古墳や箭田庵寺などを見学

し、古墳時代後半から奈良時代にかけての下道氏の勢力伸長に思いをはせた。また、今回は初めて雨天での遺跡見学会となり、山登りを伴う天狗山古墳の見学ができなかったことを、参加者全員が残念がっていた。



2. 考古学体験講座

～キレイな石のアクセサリー～

日 時 平成15年7月12日（土）・11月8日（土）

講 師 鍋谷守秀・中野倫太郎（倉敷埋蔵文化財センター）

対 象 小学生と保護者

参加者 52人（延べ人数）

縄文時代の耳飾りをモデルに、滑石（ろう石）でアクセサリーを作る講座。滑石に下絵を描きブロックレンガで粗削りを行い、サスカイトの錐で中心部に穴をあける。ワイヤーを使って一方に切り込みを入れたら、3種類の耐水ペーパーで順番に磨いていく。石の表面がつるつるになってきたら、手ぬぐい等の布でこするとさらに艶が出てきて完成である。



3. 夏休み親子考古学教室

～火おこしと土器によるご飯炊き～

日 時 平成15年7月31日（木）

会 場 倉敷市少年自然の家

対 象 小学校高学年と保護者

参加者 28人

火おこしと土器を使ってご飯とみそ汁を作るこの講座は今年で12回目を数えるが、昨年同様多くの親子が参加した。炎天下のもと、マイギリで火をおこし、

汗びっしょりになってご飯を炊きみそ汁を作るのは大変な作業である。しかし、苦労して作った分味は格別なもので、皆おいしそうに赤米入りのご飯やみそ汁に舌鼓を打っていた。



4. 秋の考古学講座 ～吉備の後期古墳を学ぶ～

日 時 平成15年11月16・23・30日(日)

講 師 第1回 新納 泉(岡山大学)

「吉備の大型横穴式石室墳」

第2回 光本 順(岡山大学埋蔵文化財調査研究センター)

「吉備の陶棺」

第3回 亀山行雄(岡山県古代吉備文化財センター)

「7世紀の古墳」

会 場 ライフパーク倉敷「視聴覚ホール」

対 象 一般

参加者 83人(延べ人数)

今回の秋の考古学講座では、吉備の後期・終末期古墳に焦点を当て、「横穴式石室墳」、「陶棺」、「7世紀の古墳」についてそれぞれのテーマで研究を続けていたる御三方を講師にお招きして開催した。

第1回は新納泉氏の講演で、「吉備の大型横穴式石室墳」と題する話をお聞きした。「吉備」と呼ばれる地域が考古学でどのように認識されるのかをパソコン画面による映像で示され、そして、吉備の中核地域において古墳文化がどのような経過で発展していくのかを映像を用いてわかりやすく解説された。また、現在発掘中の二万大塚古墳について、調査作業中のエピソードをまじえながら説明された。

第2回は光本順氏の講演で、吉備の陶棺についての話をお聞きした。はじめに、陶棺は有力古墳が前方後円墳から方墳へと移行した6世紀後半から7世紀代において製作、使用され、その分布の中心が畿内と吉備にあることが説明された。陶棺の細部の特徴についても詳しく解説され、その分析から読み取ることのできる政治的な背景についても触れられた。

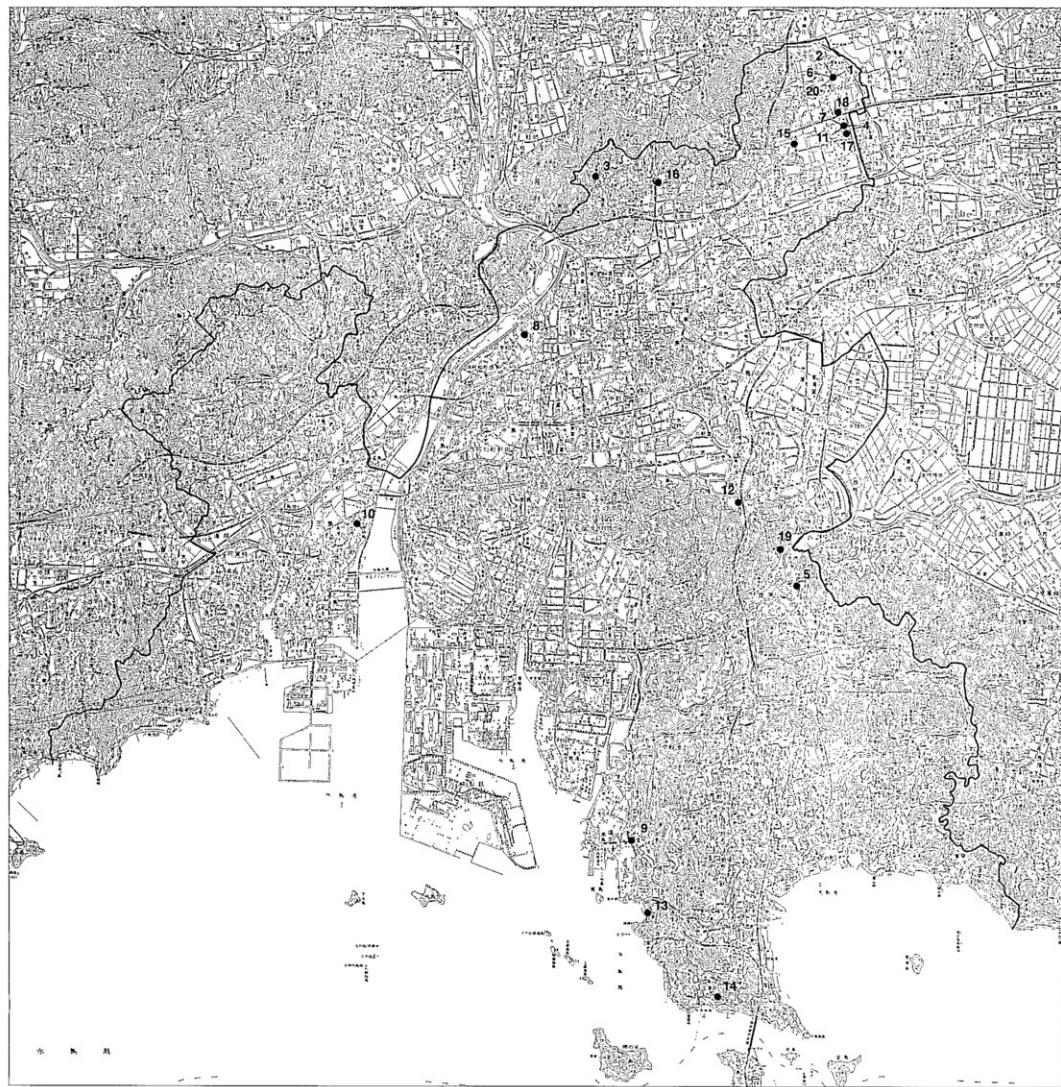
第3回は亀山行雄氏の講演で、飛鳥時代の古墳についての話をお聞きした。飛鳥時代の古墳の特徴として、風水思想に基づく選地、石垣を巡らす方形墳、大化の薄葬令による石室の小型化や尺度導入による規格化などがあげられ、倉敷市二子14号墳、姫池東古墳など具体例が示された。また、文献資料にみられる吉備氏の動向と古墳のあり方の関わりについても語られた。



IV 調査事業報告

平成 15 年度調査一覧表

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区別	調査期間	調査結果
1	日烟廃寺	日烟	宅地造成工事	確 認	03.05.29 ~ 03.06.05	須恵器・中世土器
2	王墓山古墳	庄新町	墳丘土 侵食防止工事	タ	03.06.11 ~ 03.07.24	石棺片・鉄製品
3	浅原寺跡	浅原	羅教堂建設工事	タ	03.07.16	土器片
4	上東遺跡	上東	宅地造成工事	タ	03.08.19 ~ 03.08.20	弥生土器・須恵器
5	新熊野山遺跡	林	下水道管埋設工事	立 会	03.08.30	遺物・遺構なし
6	日烟廃寺	日烟	遺跡整備	確 認	03.09.02 ~ 03.12.18	建物跡・礎石・古代 瓦・中世土器
7	上東遺跡	上東	水路改修工事	立 会	03.09.09	遺物・遺構なし
8	酒津 - 水江遺跡	水江	宅地造成工事	タ	03.09.25	タ
9	塩生遺跡	塩生	道路改良工事	タ	03.09.30	タ
10	白銀山遺跡	玉島乙島	墓地造成工事	タ	03.10.07	タ
11	上東遺跡	上東	宅地造成工事	確 認	03.10.28	弥生土器
12	磯の森貝塚	粒江	道路改良工事	立 会	03.12.10	遺物・遺構なし
13	通生遺跡	児島通生	水路改修工事	タ	03.12.17	タ
14	下津井城跡	下津井	擬木柵改修工事	タ	04.01.07	タ
15	砂原南遺跡	上東	農道改良工事	タ	04.01.09	タ
16	原津 8 号墳	生坂	公園整備	タ	04.01.14	タ
17	上東遺跡	上東	アパート建設工事	確 認	04.02.12	弥生土器・須恵器
18	上東遺跡	上東	道路改良工事	立 会	04.02.17	タ
19	大坪遺跡	串田	道路改良工事	タ	04.03.12	土師器片
20	日烟廃寺	日烟	農道補修工事	タ	04.03.23	古代瓦



調査地点位置図 (S=1/100,000)

日畠廃寺確認調査報告 (一覧表 No.1)

調査位置 日畠字赤井576番1

調査原因 宅地造成工事

調査面積 31 m²

調査期間 03.05.29 ~ 03.06.05

調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 日畠廃寺は、倉敷市の北東端、庄地区の足守川西岸に位置する。6世紀後半の王墓山古墳が存在する丘陵東裾、足守川に向かって開く深い谷状地形に立地する古代寺院である。古くから白鳳時代の瓦が採集されることが知られ、早くも1930年代には永山卯三郎、玉井伊三郎らによって調査されている。これらの調査によって谷奥に「七間×四間」の礎石建物が存在することが明らかにされ、そのうち南辺部にあたる5個の礎石は地表に露出していて、現在も見ることができる。また、倉敷市教育委員会による市道建設に伴う確認調査(昭和63年度)でも、この建物に伴う礎石群のうち、北西よりの3石を確認している。

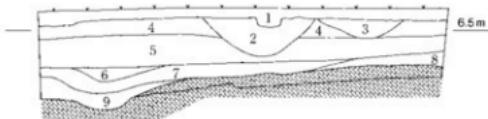
調査の概要 調査地は現在は更地となっているが、もともとは二枚の畠地であったらしく、北西側がやや高く標高6.8m、南西側が標高6.1mの平坦地である。調査区域の北端付近に物置小屋が建っていたが、調査時には撤去されていた。調査はほぼ三角形の工事計画区域内に、5×2mのトレーナチを3カ所設定して行った。

トレーナチ1は工事計画区域内の南側に設定したものである。1層と4層は耕作土、2層と3層は土壌の埋土で、最近の畑の耕作に伴うものであろう。5~7層はきめのそろった砂質層で、白鳳瓦片・須恵器片・中世土器片を含んでいるが、自然堆積層と考えられる。8層は非常にかたくしまった黄灰色土層で、遺物は出土していないが、古代の整地層の可能性もある。9層は溝1の埋土である。須恵器の細片が数点検出されたが、時期を推測できるものはなかった。この溝1は東西方向を向いており、西から東に向かって緩やかに下っている。底部は標高5.5m前後である。10層は基盤層で、北から南側の溝1に向かって緩やかに下っている。一番高いところで標高6.1m程度である。また、トレーナチの北東角で、北から東に方向を変える溝2を検出している。基盤層を深さ15cm程掘り込んでおり、古代の遺物に混じって中世土器が出でている。トレーナチ1で検出された地形が示すものは、寺域の広がる谷状地形の北側斜面であり、溝1は寺域の北辺あたりに沿って走る排水溝の一つと考えられる。

トレーナチ2は工事計画区域内の北側

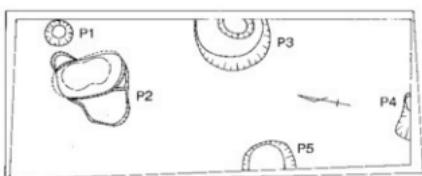
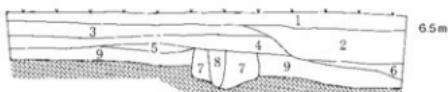


トレーナチ位置図 (S=1/2,500)



1. オリーブ黒色土
2. にぶい黄色砂（最近の土壤内埋土）
3. にぶい黄色砂（最近の上屢内埋土）
4. にぶい黄橙色砂（窓の床土？）
5. 灰黃色砂（白風瓦）
6. 黄灰色砂質土
7. 黄灰色砂質土
8. 黄灰色土（中世上器）
9. 黄灰色粘質土（溝内埋土・須恵器）

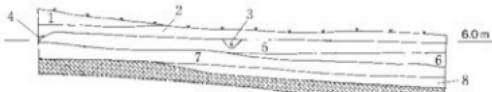
トレンチ1平面・断面図 (S=1/60)



1. 灰色土（耕作土）
2. 黄灰色砂質土（造成土）
3. 灰黄色土
4. 黄灰色（弥生土器・須恵器・中世土器）
5. 鍬灰色土（上層のしみ込み）
6. 鍬灰色土（上層のしみ込み）
7. 鍬灰色土（P3埋土、弥生土器・須恵器）
8. 灰色砂質土（柱痕）
9. 黄灰色土

トレンチ2平面・断面図 (S=1/60)

に設定したもので、最近まで物置小屋が建てられていた地点である。1層は耕作土、2層は物置き小屋撤去に伴う搅乱土層と考えられる。3・4層は中世以降の整地層または堆積層で、4層には弥生土器・須恵器・中世土器の細片が少し含まれている。4層を掘り除いた段階でピットを5基検出した。7層はP3の埋土、8層は柱痕である。この他のピットについては、断面を精査したが柱痕は観察できなかった。P2～5についてはその配置から同一の建物遺構を構成する可能性が高い。いずれのピットも埋土から弥生土器片・須恵器片が出土し、中世土器を含まないため古代の建物跡の可能性も考えられたが、上記のとおり遺構検出面（9層上面）や遺構との切り合い関係が不明瞭な5層から中世土器が出土するなどの理由から、時期決定を慎重にせざるを得なかった。しかし、期間において検討した結果、これらのピット群は中世段階で破壊を受けたものと判断され、古代に属すると考える。5・6層は基本的には9層と同質であるが、鍬灰色に汚れており、中世以降の活動により変色したものと思われる。9層は黄灰色土層で、遺物は出土していないが、古代の造成土の可能性もある。10層は基盤層である。一番高い北側で標高6.2m程、南側で標高5.9m程に下がる。



- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1. オリーブ黒色土(耕作土) | 5. 黄灰色土(弥生土器・須恵器・中世土器) |
| 2. 黒オリーブ色土(耕作土) | 6. 黄灰色土(弥生土器・須恵器・中世土器) |
| 3. 黒オリーブ色土(水道管埋設土) | 7. 暗灰青色土(弥生土器・須恵器・中世土器) |
| 4. 暗灰色土(暗渠) | 8. 黄灰色土(上層のしみ込みか) |

トレンチ3 東壁断面図 (S=1/60)

トレンチ3は工事計画区域内の東側に設定したものである。1・2層は耕作土、3層は水道管の埋設土、4層は暗渠か何かの埋設土と考えられる。5～7層はやや砂質の強い層で自然堆積層と考えられる。古代の須恵器や中世土器・鉄滓などが出土した。8層はやや粘土質で基盤層が上層の影響で変色した層と考えられる。9層は基盤層である。北側で標高5.8m、南側で標高5.4mである。また、トレンチの南端から一抱え程の花崗岩が検出されたので、寺院の礎石である可能性を考慮して南側に1×1m程度トレンチを拡張して調査を行った。その結果、礎石を据えるための掘り込み及び根石等は確認されず、自然の転石であると判明した。

まとめ 今回の調査では、トレンチ2において建物を構成すると考えられるピット群が検出されており、古代寺院施設に関する遺構の可能性がある。ただ、遺構は中世段階で大きく破壊を受けているようである。トレンチ1のように基盤層の上から中世土器が検出されることなどを考慮すると、この付近一帯は中世の段階でかなりの改変を受け、古代以前の遺構や地形は破壊されてしまっていることが考えられる。遺物については弥生土器、古代の須恵器、中世土器などが確認されたが、調査面積に比して少量である。

付記 今回調査の後、平成15年から2カ年にわたり実施した日畠廃寺確認調査（国庫補助事業）において、寺域の北側を画する可能性のある溝（北側溝）が確認された。この溝は寺院の推定中軸線から約40mの位置で東西に延びており、今回調査区の南限＝築境あたりに延びていることは、平成14年の確認調査で検出された溝状遺構の存在から明らかである。調査区域の制約から、この溝とトレンチ1の溝1を同時に調査することはできなかったが、これらの溝は同一時期に有機的関係をもって機能していたこともありうる。

トレンチ2で検出されたピット群の所属時期に関しては、土層の切り合ひ関係の把握が十分できなかつたため、古代に属するものか中世以降のものか判断し難かったが、その後の確認調査による情報の蓄積から、古代の掘立柱群と考えたい。

中世に関しては、日畠廃寺全域にわたって古代遺構の破壊というかたちで活動跡が確認してきた。溝、井戸状遺構以外に明確な中世遺構が検出されたことはなく、この時期に古代寺院跡地とその周辺をどのように利用したかが今後の課題となる。

（小野）

おうばさん 王墓山古墳確認調査報告 (一覧表 No.2)

調査位置 庄新町487番1

調査原因 墳丘土侵食防止工事 調査面積 21m²

調査期間 03.06.11～03.07.24 調査担当 福本・小野

遺跡の概要 王墓山丘陵のはば中央に位置する古墳時代後期の古墳で、昭和34年に県指定史跡となっている。かつての開墾や宅地造成により墳丘はかなり変形を受けているようだ、墳形については方墳と円墳の両方の見方がある。内部主体は大型の横穴式石室を有していたようで、石室は明治末頃に足守川の改修工事用の石材として切り出されたといわれている。現在、古墳の南側に置かれている浪形石製の組合せ式家型石棺は、このときに多量の副葬品とともに石室内から引き出されたものである。当時出土した遺物には、四仏四獸鏡をはじめ金銅裝馬具、鉄製武具、装身具類、須恵器など多種多様なものがあり、これらは現在東京国立博物館に収蔵されている。

調査の経緯 王墓山古墳については、昭和60年から63年にかけて一帯に残されている遺跡群とともに、王墓の丘史跡公園として倉敷市による史跡整備が行われ、園路の整備と東屋の設置および墳丘部分の芝張り工事などが行われている。しかしながら近年になって、とくに雨水の侵食による墳丘土の流失が著しくなり、墳丘の更なる変形、破損が懸念される状況となってきた。このため、岡山県教育委員会の指導により福武文化振興財団からの補助を受け、盛土工法による墳丘土侵食防止工事を実施することとなった。確認調査は、当該工事に先立ち実施されたもので、墳丘の形状を確認するとともに、今後の遺跡保存の資料とするため石室の残存状況についても確認することとし、計4カ所のトレーニングを設定した。

なお、今回の報告にあたり、昭和62年に実施した公園整備に伴う確認調査のうち、墳丘の盛土の状況が明確になった墳丘西側に設定したトレーニング（トレーニングA）の概要についても、参考までにあわせて掲載することとした。

調査の概要 今回の確認調査は、石室があったと思われる墳丘中央部分に1カ所（トレーニング1）、墳丘の裾部分に3カ所（トレーニング2～4）のトレーニングを



王墓山古墳位置図 (S=1/10,000)



トレンチ配置図 ($S=1/300$)

設定し、実施した。

トレンチ1は石室の残存状況を確認するために、古墳の南側の崖みに幅1.5m、長さ5mの規模で設定した。調査の結果、トレンチ東方で石室の東側の側壁と思われる石組みの一部を確認することができた。石組みは、床面から約1mほどの高さが残されており、大型の根石2個分と小口積みにされた2段目の扁平な石材1個が確認されている。石材は平滑な面を内側に向かって、それぞれの石の隙間は割石で充填されている。2段目から上はすべて取りはずされており、トレンチ東端では打ち割られた側壁石材の転石と思われる石も検出されている。また西側の側壁については、石材はすべて抜き取られたものと思われるが、地山面での精査にもかかわらず、トレンチ北壁部分でわずかに土壌状の落ちがみられるほかは、明確な抜き取りの痕跡を確認することはできなかった。このため石室の幅については確定すること



トレンチ1石室東壁実測図 ($S=1/50$)



トレンチ1石室東壁

は難しいが、東側の側壁から西へ約1.7mほどの間が東側の側壁に平行して浅く窪んで、地山直上に灰褐色粘質土が堆積している状況が確認され、北壁際の落ちとも整合することや、またこの中から鉄製品等も検出されていることなどから、この層を石室床面直上の堆積土とみなせば、おおむね西壁はこの土層の西端ラインあたりにくるものと推定される。これによる推定の石室の幅は約1.7mとなる。ただ、今回のトレンチの位置が、墳丘全体からみるとやや南よりであることから玄室ではなく、羨道部分である可能性も考えられる。

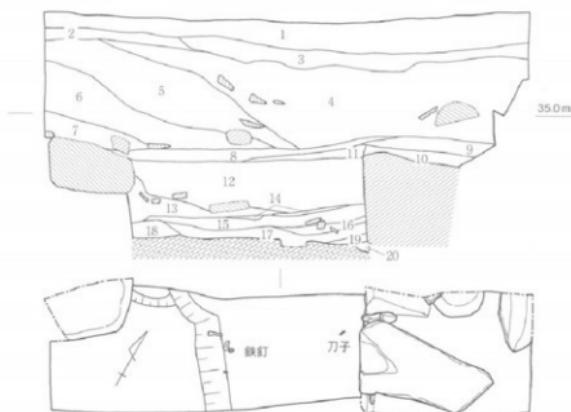
また断面を見ると、現地表面から石室の床面と思われる地山層までの深さは22mある。これらの層は、部分的に黒灰色の墳丘土が再堆積して非常に固く縮まった土もみられたが、床面直上のわずかな層を除いてすべて明治末に石室が破壊された後に埋め戻された土であると考えられ、当時かなり大きな範囲で墳丘が削られ、石室石材の抜き取り工事が行われたことが推定さ



トレンチ1 石室残存状況



トレンチ1 石室内遺物出土状況



- | | | |
|-----------------|-----------------|-------------------|
| 1. 灰黄色土(墳丘盛土混入) | 8. 浅黄色粗砂(流土) | 15. 黄灰色砂質土(流土) |
| 2. 黄褐色土() | 9. 黄褐色土(墳丘盛土混入) | 16. 暗灰褐色粗膠(*) |
| 3. 灰黄色土() | 10. 断灰黃色土() | 17. 灰黃褐色粘質土 |
| 4. に赤い黄色土() | 11. に赤い黄色粗砂(流土) | 18. に赤い黄色花崗岩バイラン土 |
| 5. 灰白色土() | 12. 灰色土(墳丘盛土混入) | 19. 灰黄色土 |
| 6. 灰黄色土() | 13. に赤い黄褐色土 | 20. 黄灰色土 |
| 7. 灰黄色土() | 14. に赤い黄色粗砂(流土) | |

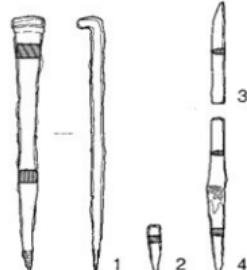
トレンチ1平面・断面図(S=1/50)

れた。またこの堆積土中には、古墳に伴うと思われる少量の須恵器片や石棺片などが含まれているほか、打ち割られた無数の花崗岩の石片が含まれており、石材を切り出す際にある程度この場所で石材を加工して運び出したものと思われる。

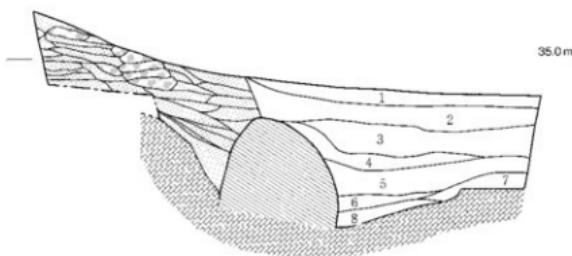
出土遺物については、原位置を保ったものはみられないが、石室床面と推定される位置から4点の鉄製品が出土している。このうち1・2は、鉄釘である。1は、ほぼ完形の大型の鉄釘で、全長は15.1cmあり、頭部はJ字形に折り曲げられている。断面は長方形を呈しており、先端部分に木質の痕跡が残されている。また2は、小片であるが、鉄釘の破片と思われる。3と4は刀子で、同一の固体の可能性がある。幅0.8cmほどの細身のもので、柄部分には木質が残されている。

このほかの遺物については、いずれも石室石材が抜き取られた後に埋め戻された土の中から検出されたもので、石棺の破片、須恵器小片、土師質土器片、サヌカイト片等が出土している。石棺と思われる破片は浪形石製で、小さな破片まで含めると11点が検出されている。このうち最も大きな破片は、平滑な面が14×15cmほどのもので、向かいあう面との厚さは15cmを測る。この厚さは、墳丘前に据えられている石棺とほぼ一致するが、石棺の欠損している部分とは直接には接合せず、どの部位に当たるかについては不明である。なお、他の破片も浪形石製で石棺材の一部と思われるが、いずれも小片である。現在保存されている石棺は、蓋の片側と身の一部が破損しているが、これらの石棺片は、明治末に石室石材が切り出され、石棺が引き出された際に破損したものの一例であると思われる。また須恵器については、いずれも小片であり、図化できなかったが、杯身片1・壺片1・甕片4が検出されている。

トレンチ2は、墳端および墳丘の残存状況を確認するため、長さ5m、幅1mの規模で、墳丘北側に設定した。調査の結果、トレンチ中央から径1.2mほどの花崗岩自然石が検出され、土層断面はこの石を境に大きく異なる状況がみられた。自然石の上方では、上面は削平をうけているものの、墳丘の盛土が良好に残されていることが確認された。一方、自然石の下方は、ちょうど自然石付近で墳丘盛土が切れて、にぶい黄色および橙色の土などが堆積している状況がみられた。これを後世の削平とみると、あるいは築造当初からの墳端とみるかについては明確にし得ないが、自然石下端付近で地



トレンチ1出土鉄器 (S=1/3)



■ ロック状の土塊 (上部: 黄灰色土、下部: 黒褐色土)
■ 地山土を主体とする盛土

- | | |
|------------|--------------------|
| 1. 黒灰色腐植土 | 5. 灰色土とにぶい橙色土の混ざり土 |
| 2. にぶい黄褐色土 | 6. にぶい橙色土 (墳丘盛土混入) |
| 3. にぶい黄褐色土 | 7. 橙色土 (墳丘盛土混入) |
| 4. にぶい橙色土 | 8. にぶい褐色土 |

トレンチ2北壁断面 (S=1/50)

山の直上に墳丘土が混じっている状況がみられるところなどから、墳端はおおむねこの自然石付近にくるものと推定された。

また、墳丘盛土部分の土層を詳細にみると、自然石から1mほど離れたあたりで、厚さが約10cm、長さが40cmほどの大きさで、上半が黄灰色で下半が黒褐色を呈しているブロック状の土層がみられ、ちょうど土糞を積むように5段に積み上げた状況が確認された。これらのブロックの背後には、それぞれの高さにあわせて地山土混じりのにぶい黄橙色土が充填されている。一方、これを平面でみると、ブロックは50×40cmのやや歪な楕円形を呈しており、重なり合うように弧状に積まれている状況がみられた。これらは墳丘の形にあわせてブロック単位で積み上げていったような状況を呈しており、墳丘の構築方法を考える上で注目される遺構である。

トレンチ3は、墳丘東側で墳端を確認するために設定した。ここでは、トレンチ上方で花崗岩質の地山が露出しており、墳丘盛土は確認できなかった。また、トレンチの東半は大きく削平を受けており、地山は東に向かって2.5mほど急激に落ちている。落ち

際の地山には花崗岩が露出しており、部分的に矢を入れて削取られた痕もみられる。

また堆積土中およびトレンチ底の地山直上からは花崗岩の割石片が多くみつかっており、このトレンチ周辺でも周辺地形を大きく変形して石材採取や石材の調整が行われたものと考えられる。

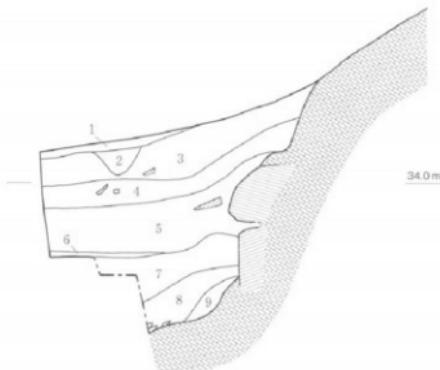
トレンチ4は、墳丘の西側に設定した。周辺は後世の溝や穴などによる地形の変化が著しいが、トレンチ東端では風化花崗岩の地山の上に有機物を含む黒灰色土と地山の土を互層に積み上げた状況がみられ、わずかではあるが墳丘盛土が残存している状況が確認された。墳端については、確認した部分の面積が小さく、地山面もかなり変形



トレンチ2



トレンチ3



- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 灰黄褐色土(表土) | 6. 黄褐色粘質土 |
| 2. 黑褐色土(難土) | 7. 明黄褐色土(地山土混入) |
| 3. 明黄褐色土(墳丘盛土混入) | 8. 明黄褐色砂質土 |
| 4. 明黄褐色土(墳丘盛土混入) | 9. 明黄褐色崩粘質土 |
| 5. 明黄褐色砂質土 | |

トレンチ3南壁断面 (S=1/50)

を受けているので明確ではないが、おおむねトレンチの南西端付近になるものと推定される。

先述のように昭和62年に実施した公園整備に伴う確認調査のうち、墳丘西側に設定したトレンチをトレンチAとした。このトレンチの位置は、トレンチ4から西へ2mほど離れた位置に当たるが、墳丘盛土の状況を示す断面が良好な状態で残されていたものであり、この機会に紹介しておきたい。

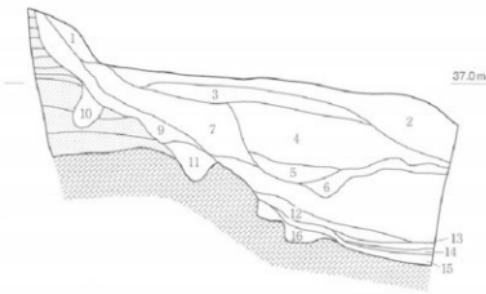
トレンチAは、幅0.8m、長さ3.2mほどの小規模なもので、主に墳丘断面の観察を目的に掘開したトレンチである。土層断面をみると、厚さ10cm前後、幅30~50cmの黒灰色の土が、ブロック状に堆積している状況がみられた。このブロック状の土は下半が濃い黒色土で、上方にいくにしたがって黒色が淡く黄味を帯びてくるもので、これがひとつの単位になって、トレンチ内で17段(1.4m)ほど積まれている状況が確認できた。またブロックどうしの隙間は、地山土を含む黄灰色土で充填されており、それぞれの高さにあわせてブロックの背後に同様の地山土混じりの黄灰色土で盛土がなされているようみえる。こうしたブロック状に墳丘土が積み上げられていく工法は、今回のトレンチ1で確認されたものと同様



トレンチA

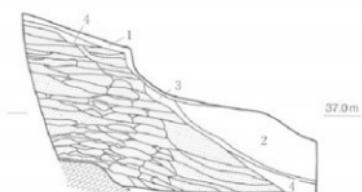


トレンチ4



■	ブロック状の土塊 (上部: 黒灰色土 下部: 黒褐色土)
□	地山土を主体とする盛土
1.	にぶい黄褐色土
2.	にぶい黄褐色土
3.	灰褐色土 (旧表土)
4.	黄褐色土
5.	穡色土
6.	にぶい黄褐色土 (墳丘盛土混入)
7.	浅黄色砂質土
8.	浅黄色砂質土
9.	にぶい黄褐色土 (炭化物混入)
10.	にぶい黄褐色土 (ビット埋土)
11.	にぶい黄色土 (ビット埋土)
12.	にぶい黄色砂質土
13.	明黄褐色土
14.	にぶい黄褐色土
15.	灰褐色土 (墳丘盛土混入)
16.	明黄褐色砂質土

トレンチ4南壁断面 ($S=1/50$)



■	ブロック状の土塊 (上部: 黒灰色土 下部: 黒褐色土)
□	地山土を主体とする盛土
1.	暗灰色土 (表土)
2.	明黄褐色土 (造成土)
3.	暗灰色土 (旧表土)
4.	緑灰色砂質土 (流土)

トレンチA東壁断面 ($S=1/50$)

で、トレーニング4でわずかにみられた同様の黒色土を含めて、墳丘全体で同様の盛土工法が行われたものと思われる。

以上のように、今回のトレーニング調査は、緊急工事に伴う部分的な調査であったため、古墳の全体像を掴むまでは至っていないが、王墓山古墳に対するいくつかの資料を得ることができた。その中で、墳丘については、どのトレーニングにおいても墳端部が削平を受けており、明確な遺構として捉えることは難しかったが、墳丘土の残存や地山面の傾き等から直径20mをやや超える程度の円墳であると推測された。また、石室石材の抜き取りに伴う破壊により石室の前半部は、トレーニング1の墳丘の南側の石室前面部分からトレーニング3のある東側にかけて想像以上に大きな削平を受けていることが判明し、さらに堆積土および地山直上からは多くの花崗岩の小片が見つかっていることから、この周辺に石切りの作業場がつくられ、石材の調整が行われたものと思われた。そうした中で内部主体については、トレーニング1で部分的に残されていた石室の東側の側壁により、石室は現在石棺が置かれている南東方向に開口する大形の横穴式石室であり、今回のトレーニングの位置が羨道部にあたる部分である可能性も残されているものの、石室幅は1.7m程度になるものと推測された。そのほか墳丘盛土について、トレーニング2やトレーニングAでみられたようなブロック状に盛土を行っていく工法は、津山市の橋本塚1号墳などをはじめいくつかの古墳でよく似た状況が確認されており、墳丘盛土の構築工法を考える上で注目されるものである。

墳丘土侵食防止工事の概要

墳丘土侵食防止工事は、平成16年1月から2月にかけて実施した。工事にあたっては、各トレーニングで確認された成果をもとに、基本的に真砂土を用いた盛土工法で行うものとし、芝張りで仕上げることとした。古墳の北面および西面については、宅地造成により大きく削平されており、急な斜面となっているため、盛土は古墳の南面から東面を中心に行うこととし、直径23mの円形を基本として盛土を行った。なお、墳丘の高さおよび上端面の状況については、墳丘上面全体が削平を受けているため明確にし得ないので、現況の墳頂部分を基本として、現在の最高所にあわせて平坦な面に仕上げることとした。このため、墳頂面はかなり広いが、現在石棺が置かれている面から盛土上面までの高さは約3mとなっている。また石棺の置かれている石室開口部とされる部分については、確認された石室の開口方向にあわせて、石棺を囲むように墳丘をコの字状に壅ませ、斜面は崩落防止のため植生土養積みとした。

(福本)



工事状況



工事終了後

あさばらでら
浅原寺跡確認調査報告 (一覧表 No.3)

調査位置 浅原字峰1668

調査原因 羅教堂建設工事

調査面積 3.5 m²

調査期間 03.07.16

調査担当 鍵谷・藤原

遺跡の概要 浅原寺跡は、倉敷市と清音村との境である浅原峠の南側、南北朝の戦乱の舞台である福山から南に伸びる尾根の麓に位置している。寺跡の詳しい内容については不明であるが、古文書等の記述によれば、平安時代から鎌倉時代にかけて隆盛を極めていたものの、南北朝の戦乱により毘沙門堂を残してそのほとんどが灰塵に帰し、以後しだいに衰微していったようである。また、現在浅原寺跡の地に建つ安養寺は、寛文七(1667)年に浅原寺が破却した後の享保二(1717)年に、この地へ移ってきたものであるが、もともとは数多く存在した浅原寺の僧坊のひとつであったらしい。

調査の概要 調査地は、安養寺西側に位置する尾根上の平坦地南端付近にある。調査は、新たに羅教堂を建設するため取り壊されることになっている既存の小堂の北側に、3.5×1mのトレンチを1カ所設定して行った。以下、トレンチの概要について記す。

15cm程度の表土の下には、拳大の白色礫を多く含む灰白色土層が存在する。厚さは20~30cmで、ほぼ水平に堆積しており、基盤層を削って盛った造成土と考えられる。その下は、灰黄色を呈する比較的きめの細かい均質な層で、ほぼ水平に堆積している。そして、この下がにぶい赤褐色を呈する基盤層となる。また、基盤層の直上に炭を含んだ薄い層が部分的に認められており、旧地表面の可能性がある。遺物としては、基盤層直上の炭層から時期不明の土器小片が1片出土した以外は皆無であった。

今回の調査地点は、背後の丘陵斜面が不自然に平坦に突出した部分の先端であり、おそらく背後の丘陵斜面を削り前面に押し出すことで形成された可能性が高い。基盤層の上面が平坦であることから、その削平は比較的古い時期の感があり、浅原寺との関連も十分考えられる。 (鍵谷)



調査地位置図 (S=1/5,000)

上東遺跡確認調査報告 (一覧表 No.4・No.11)

調査位置	上東字右京之進314番外	調査面積	24 m ²
調査原因	宅地造成工事	調査担当	鍵谷・小野 藤原
調査期間	03.08.19～03.08.20 03.10.28		

遺跡の概要 上東遺跡は、足守川の沖積地に立地する弥生時代後期を中心とした集落遺跡である。これまで、岡山県教育委員会や倉敷市教育委員会による発掘調査が何度か実施され、遺跡の性格についてははある程度明らかになってきているが、その明確な範囲や集落の中心部については十分把握できていないのが現状である。

調査の概要 今回の調査地は、山陽新幹線より南へ約300m、東村の集落北端部にあたる水田部分である。相隣接する土地の宅地造成工事計画が2期に分けて提出されたため、確認調査も2期に分けて実施した。

第1次調査は、北半部を対象に2×2mのトレンチ5カ所 (T1～T5) を設定して行った。土層の堆積状況はどれも似通ったもので、水田耕作土に続いて黄褐色粘質土、灰褐色粘質土、灰色粘質土の堆積がみられ、地表からの深さ80cmくらいで灰色シルト層となる。該当期の遺構、遺物包含層は認められないが、各土層から弥生土器、須恵器、中世土器などの遺物が少量出土している。トレンチ4では灰色シルト層から近世の備前焼片が出土しており、この時期には湿地状を呈していたと思われる。

第1次調査で遺構や遺物包含層が確認されなかったため、第2次調査では南半部を対象に2×1mのトレンチ2カ所 (T6・T7) を設定した。東側のトレンチ6では、耕作土直下で弥生時代のベースとなる浅黄色の土層を確認した。この下は黄色系の砂質土となり、地表下約60cmで青灰色のシルトとなる。遺物・遺構は確認できなかった。西側のトレンチ7では、耕作土直下で溝状遺構1基とピット1基を検出した。溝状遺構は、検出面で幅約1.5m、深さ約30cmで、その埋土には弥生時代後期の土器が比較的多く含まれていた。ピットはトレンチの北東隅で検出され、遺物は出土していないもののその埋土は溝状遺構のそれと似ており、ほぼ同時期と考えられる。どちらの遺構も弥生時代のベースとなる浅黄色土を掘り込んでいるが、状況から考えてその上部は既に水田の地下げにより削平を受けているものと思われる。

このように、調査対象地の南半において弥生時代の遺構が確認された一方で、北半は湿地状であることから、今回の調査地点あたりから南に向かって弥生時代の微高地が始まり、その上に現在の東村の集落が形成されていると思われる。

(鍵谷)



トレンチ位置図 (S=1/2,500)

日畠廃寺確認調査概要

(一覧表 No.6)

調査位置 日畠字赤井550番1外

調査原因 遺跡整備

調査面積 309m²

調査期間 03.09.02～03.12.18

調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 日畠廃寺は白鳳時代(7世紀後半)に創建された市内最古の寺院跡で、昭和46年に倉敷市の史跡に指定された。その後、「王墓の丘史跡公園」の日畠地区として、芝生を貼る簡易な整備が行われ、史跡公園として一般に公開されている。しかし、現状では旧水田地形の一角に礎石列が並ぶ他には遺構を観察することはできない。

日畠廃寺については、「吉備郡誌」や「吉備古瓦図譜 第二輯」などにその記述が見られ、礎石列が露出する建物跡を中心に部分的な発掘調査は試みられてはいるものの、本格的な調査は行われておらず、伽藍配置や寺域等の詳しいことについては明らかになっていない。倉敷市教育委員会によるこれまでの発掘調査としては、昭和63年度の市道建設に伴う確認調査や住宅団地の造成に伴い平成5年度に実施した確認調査、あるいは平成14・15年度に実施した個人住宅の宅地造成に伴う確認調査などがある。しかし、これらはいずれもトレンチによる狭小な範囲の調査であり、市道建設に伴う調査で建物跡に伴う礎石が再確認された以外は、寺跡の具体的な内容や性格に迫る成果は得られていない。

こうしたなか、近年日畠廃寺周辺において宅地造成等の開発が目立つようになり、その一部は寺域内の可能性もあるなど、遺跡を保護していくうえでは憂慮すべき状況となっている。そこで、こうした開発から日畠廃寺を適切に保護していくとともに、今後の活用を図るために基礎資料を得ることを目的として、平成15・16年度の2カ年計画で確認調査を実施することになった。

調査の概要

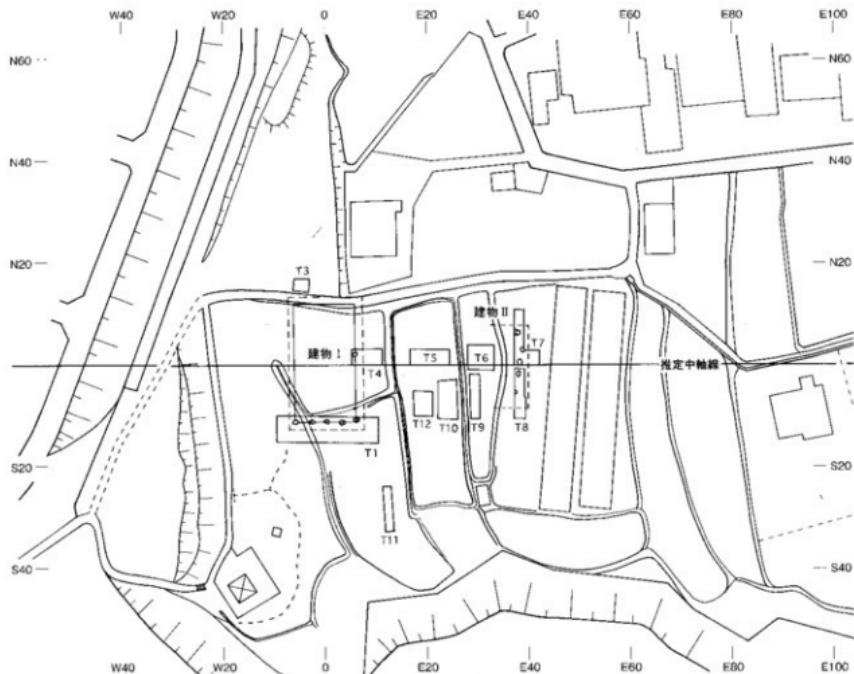
(1) 建物跡Iの調査

建物跡Iは、上記の文献で、四面に庇が付く7間×4間の礎石建物であることが発掘調査によって判明したとされ、講堂跡と考えられている。今回あらためて礎石配置、基壇の構造等を確認するため、2カ所にトレンチを設定した。

建物跡Iの南端では、東西一列に並ぶ4個の礎石の上面が以前から露出し、同列西端の1個が造成土の下に埋没している。これら5個の礎石の配置状況の確認や、基壇の構造、回廊等の施設の有無などを把握するため東西20m、南北約5mのトレンチ1



日畠廃寺位置図 (S=1/10,000)



調査地位置図 ($S=1/10,000$)

を設定した。以下、検出された遺構ごとに概要を記述する。

〈基壇〉旧耕作土・堆積土を除去すると、自然堆積の粘質土層（地山）を削り出して成形された基壇とその上に並ぶ花崗岩製の礎石5個が検出された。基壇は雨落溝によって南辺を区画されており、南面に回廊がとり付く状況は確認されなかった。基壇検出面は西から東に傾斜しており、東にある礎石ほど高く露出している。これは、開墾により基壇上面が瓦溜まりと共に削平された結果であろう。かつてここで水田耕作をしていた頃、牛鋤の刃先に瓦が当たって多くの瓦が掘り出されたと言われる。

〈礎石〉検出された礎石5個のうち東端の1個だけは直径53cmの柱座が造り出されているが、横転してこの面が北側を向いている。柱座の中心にくさびが打ち込まれ、そこから割れ目が一周しているものの全体の形は崩れていない。他の4個の礎石は原位置を保っており、掘り形の中に根石で支え据えられている。礎石上面の高さは7.146m～7.185mの範囲におさまる。

〈基壇外装〉基壇東辺には、わずか3石ながら花崗岩を用いた乱石積みの外装が認められた。扁平な石材を立てて基壇の立面観を整えているようである。石材の裏込めから7世紀後半の須恵器杯蓋が出土した。なお、基壇南辺および西辺では外装らしきものは認められなかった。

〈雨落溝と排水施設〉基壇の南辺には残存長12m、幅1m規模の一条の雨落溝が検出された。東端側は基壇南東角で途切れ、この付近から北隣に瓦積みの暗渠が並行する。これは、丸瓦の凸面を上にし

て端部が重なるように8枚の丸瓦を一列に連ねたもので、総延長2.3mを測る。瓦列の東端は西端より15cm程度低い。雨落溝の西端側は中世の溝に削られているために溝の行き先をたどることはできないが、本来は基壇外周に沿ってコーナーを曲がり、北辺に続いていると思われる。

〈南西隅の溝と地形の高まり〉トレンチ1の中で地山の地形を見ると、南西隅が最も高くなっている。この場所で東西に延びる幅20cmの細い溝が検出された。中世の溝に切斷されているため詳細は不明であるが、地形の高まりにこの溝が付随するものとすれば、建物跡Iの南西あたりに別の遺構が存在する可能性も考えられた。

〈出土遺物〉古代の出土遺物については、雨落溝の埋土下層から白鳳時代の瓦、埴、少量の奈良・平安時代の土器類がある。瓦については、創建瓦と同范の可能性が高い素弁八弁蓮華文軒丸瓦であるが、製作技法の異なるものが出土している。また、トレンチ東端一帯で炉壁とみられる、被熱によりガラス化した粘土塊が出土し、瓦積み暗渠の埋土の中にも含まれていた。付近に工房があったのかもしれない。基壇南西付近の中世の溝には土師質碗を中心とした13世紀前後の遺物が含まれており、寺院遺構の埋没があまり進んでない状態で生活が営まれたと考えられる。

建物跡Iの東辺中央部にトレンチ4を設定した。厚さ約80cmの造成土を除去すると、基壇に据えられた礎石1個、乱石積みの基壇外装が確認された。礎石上面の高さは7.035mで、基壇裾との落差は84cmを測る。基壇外装は、地山を削ってできた傾斜角30°くらいの斜面に人頭大の自然石を密に配した状態で検出されたもので、トレンチ1で検出されたものと位置的に対応する。中世段階に改変を受けたためか基壇斜面に残る石材は少なく、プライマリーな状態をとどめていないが、石材の残りが比較的よい部分を見ると石積みというよりも葺石に近い印象を受ける。基壇東方前面には地山を削って平坦面を作り出しており、最下段の石材から50cmくらい東で小さい段差が認められる。また、建物跡Iの東辺中央という位置関係から階段の存在も想定されたが、少なくともこれらの石材が階段を構成する状況は認められなかった。出土遺物については、白鳳時代の瓦、中世土器などがある。基壇上面に薄い瓦溜りが検出されたが、中世の遺物が含まれており、二次堆積であろう。

(2) 建物跡IIの調査

建物跡IIは、建物跡Iの東西の推定中軸線を東に延長して設定したトレンチ6・7・8・9において新たに発見された礎石建物である。基壇の規模、礎石配列等を明らかにすることはできなかったが、建物跡Iとともに東西主軸線上に配置された主要建物と考えられる。

トレンチ6・9では建物跡IIの基壇を検出したが、礎石、基壇外装および石材等の抜き取り痕は確認されなかった。基壇は、軟弱な黒色砂質層の上に版築工法により築かれており、残存する版築層の厚さはトレンチ6で約120cmを測る。下位部分は水分を多く含んだ土を使ったためか土層断面がマーブル状で、層の上下の境も渦巻くように見える。上位部分は乾いた状態の土を積み重ねて安定させている。現状では、黒色砂質層から湧水があるものの、どの層も安定して継まっている。基壇の上面は、ぶどう畑の開墾の際に広く削平されている。トレンチ9で基壇南辺部分の断面を中心に精査したが、明確な基壇端をおさえることができなかった。また、掘込み地業の痕跡は認められない。基壇端の想定される部分が搅乱を受けているため、版築層は南側で次第に薄くなって消滅し、その南で東西に走る溝が確認されるにとどまった。

建物跡Ⅱの基壇の東端に設定したトレンチ7・8では、南北約12mにわたって5個の礎石が検出された。いずれの礎石の上面も版築層の検出面より下位にあり、その高さは不揃いで、平面的にも一列に並ばないため、原位置を保つものではないと判断された。おそらく、開墾の際に基壇の東側が深く削られて段々畝に変形され、礎石が耕作に邪魔となったため、礎石の真下か少し離れた位置に穴を掘りながら落とし込まれたと考えられる。5個の礎石のうち北から1番目と4番目ものは円形の柱座をもっていることが確認され、柱座上面径はそれぞれ62cm、54cmを測る。建物の南側にはトレンチ9の南端で検出された東西溝の続きが存在する。トレンチ7・8でも基壇端をとらえるために断面を中心に精査したが、基壇北端・東端・南端の想定される部分がいずれも破壊を受けていることが判明し、不動の礎石も確認できない現状では基壇の規模を推定することは困難である。仮に版築の層が途切れる部分に基壇の端を想定すると、南北15～16m程度の規模と推定される。建物跡Ⅱについては以上のような保存状況を把握するにとどまったが、建物跡Ⅰ（講堂跡）とともに日畠庵寺の主要な伽藍のひとつであることは明らかであり、建物の位置などから金堂あるいは塔が想定されるであろう。

(3) その他の調査区

上記以外に、建物Ⅰ基壇、建物Ⅱ基壇、溝等の遺構の広がりを把握するために設定したトレンチの概要をまとめると。

トレンチ3 建物Ⅰの北側の状況を確認するために設定したものであるが、厚さ70cmのごみ層とその下にシルト層の堆積を確認したのみで、遺構は検出されなかった。このあたりは、30数年前はレンコン栽培が行われていた湿地で、その後庄パークヒルズ造成の際に建築廃材や家庭ごみなどが投棄されながら現在の高さまでに造成されたと言われる。

トレンチ5 建物Ⅰと建物Ⅱの間に位置するトレンチで遺構は検出されなかった。厚い堆積層が見られ、地表下1.7～1.8mで地山に達する。トレンチ4で検出された建物Ⅰ基壇東側の平坦面はすぐに緩やかな傾斜面となり、東に向かって緩やかに下る様子が観察された。また、建物Ⅱの基壇西端がトレンチ5まで及ばないことが確認された。

トレンチ10・12 建物Ⅱの基壇の広がりや東西に延びる溝の状況を確認するために設定したものである。両トレンチとも基壇の版築層は検出されず、このあたりまでは基壇は延びていないと判断される。しかし、複数回にわたって整地が行われたことが確認され、建物の間の空間が整備されたことを示している。東西溝はトレンチ10では検出されたが、トレンチ12までは延びていないことが判明した。

トレンチ11 寺域の南端を把握するために設定したものである。湧水が激しく、平面の精査を行える状況ではなかった。断面観察では溝あるいは土壌などの遺構を検出した。時期は弥生時代のものが中心であり、明瞭な古代の遺構は確認できなかった。

（小野）

じょうとう

上東遺跡確認調査告 (一覧表 No.17)

調査位置 上東字左馬之助269番1

調査原因 アパート建設工事 調査面積 4m²

調査期間 04.02.12

調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 上東遺跡は足守川の形成した沖積地に立地する集落遺跡である。弥生時代後期を中心とし、旧石器時代から中世までの各時期の遺構・遺物が確認されている。今回の調査地の東方でも岡山県教育委員会によって主要地方道箕島高松線改築工事に伴う発掘調査(平成9年度)が実施され、弥生時代後期の大規模な波止場状遺構が検出されている。また、ここから北へ約200mの地点で倉敷市教育委員会が実施した宅地造成に伴う確認調査では、弥生時代後期の土器を含む溝状遺構が検出されている(本年報20頁)。

調査の概要 調査地は、主要地方道箕島高松線の西側に位置する古い集落の中にある水田地帯で、標高は約12mの高さである。調査は、アパートの合併浄化槽が設置される予定の位置に2×2mのトレンチを1ヵ所設定して行った。調査時点で既に盛土造成が行われており、造成土の下は旧表土層である黒褐色腐植土層、旧水田耕作土、床土が続く。ここまで土層から近世以降の陶磁器や、古墳時代の須恵器が若干出土している。また、床土層には南北に軸をおく浅い溝状遺構が掘り込まれ、遺構埋土としてにぶい赤褐色土層がみられる。その下は、やや粘質のよくしまった黄灰色土、砂質と粘質の部分が混在する黄灰色土が続き、後者には弥生土器の破片がわずかに含まれている。次に、暗灰色粘質土と灰色砂質土の互層からなる堆積層がみられ、その下層は徐々に灰色の砂層となっている。これらの層には遺物は含まれていないが、自然のものとみられる植物遺体が含まれている。現地表下から13mの高さで湧水がはげしくなったため、灰色砂層の掘り下げを中断して掘削を終了した。

以上のとおり、今回の調査では弥生土器片・須恵器片などの若干の遺物が出土したが、後世の削平を受けているため、確実に中世以前に遡る遺構などは確認できなかった。水田床土の下の黄灰色粘質土は、少なくとも中世段階には安定した基盤層になっていたと思われるが、これが弥生時代にまで遡るかは不明である。(小野)



調査地位置図 (S=1/5,000)

V 寄贈図書一覧 [2003.4.1 ~ 2004.3.31]

北海道 (財) 北海道埋蔵文化財センター	調査年報16、テエタ第10号・第11号、キウス4遺跡(9)、野田生1遺跡、穂香堅穴群(2)、米原4遺跡(2)・宮戸4遺跡(2)、浜厚真3遺跡、キウス4遺跡(10)、オルイカ1遺跡、オルイカ2遺跡、湯川左岸遺跡・B地区・、本茅部1遺跡、ユカンボシC15遺跡(6)、対雁2遺跡(4)、西高松5遺跡(2)、ポンアヨロ4遺跡、石倉3遺跡・石倉5遺跡、オルイカ1遺跡(2) C424遺跡・C507遺跡 大楽毛1遺跡調査報告書Ⅲ 祝梅川遺跡・祝梅川矢島遺跡・梅川4遺跡における考古学的調査 収蔵品目録3
札幌市 札幌市埋蔵文化財センター	ネットワーク発掘第16号～第17号、紀要XXII
千歳市 (財) アイヌ文化振興・研究推進機構	猪岡館跡第2次発掘調査報告書・泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書・仁昌寺2遺跡・仁昌寺遺跡発掘調査報告書・柳沢II遺跡発掘調査報告書・米沢遺跡・釜石遺跡発掘調査報告書・浅石遺跡発掘調査報告書・宮町方八丁遺跡発掘調査報告書・新田遺跡発掘調査報告書・久田遺跡発掘調査報告書・烏岡II遺跡発掘調査報告書・福荷遺跡発掘調査報告書・矢崎I遺跡第2次発掘調査報告書・本町II遺跡第2次発掘調査報告書・明後沢遺跡群発掘調査報告書・清田台遺跡発掘調査報告書・細谷地遺跡発掘調査報告書・白太郎遺跡第23次発掘調査報告書・白太郎遺跡第26次発掘調査報告書・白太郎遺跡第35次発掘調査報告書・飯岡沢遺跡第3次発掘調査報告書・飯岡沢遺跡第5次発掘調査報告書・野古A遺跡第12次発掘調査報告書・野古A遺跡第15次発掘調査報告書・白太郎遺跡第44次発掘調査報告書 北上市埋蔵文化財年報(2001年度)・滝ノ沢遺跡IV・藤沢遺跡IV・国見山廃寺跡・滝ノ沢遺跡VI・北上市内試掘調査報告・牡丹畠遺跡 林前南領跡・下植田遺跡II
北上市立埋蔵文化財センター	平成14年度多賀城市埋蔵文化財調査センターレポート・市川橋遺跡・矢作ヶ館跡ほか・市川橋遺跡・高崎遺跡 堤根遺跡・中沢遺跡・灰塚遺跡・杉ノ下遺跡・名生館官衙遺跡XXIII・筆塚B遺跡 元中田遺跡・原遺跡・野田山遺跡・原遺跡発掘調査報告書 地底の森ミュージアム年報第7号・仙台市富沢遺跡保存館研究報告6・送りの考古学・後期旧石器から繩文時代の葬送・市民文化財研究員活動報告書7
横浜市 多賀城市埋蔵文化財調査センター	埋文やまがた第27号～第28号・平成14年度年報・研究紀要創刊号・沼向遺跡・馳上遺跡・二階堂氏屋敷跡・北大屋敷跡・小山遺跡・菖蒲江1遺跡・汎江遺跡・向河原遺跡・北島遺跡・山形元屋敷遺跡・四ツ塚遺跡・向河原遺跡・蔵坂押切遺跡・砂子田遺跡・かっぱ遺跡・釜淵C遺跡・東畑A遺跡・山形西高敷地内遺跡・志戸田郷遺跡・三条遺跡・高瀬山遺跡(SA)・谷柏J遺跡・盲目鬼遺跡・鶴渡遺跡・中袋遺跡・中川C遺跡・立泉川遺跡・鶴ヶ岡城跡 米沢市文化財年報No.15・館山城跡測量調査報告書・遺跡詳細分布調査報告書第16集・大塚山遺跡発掘調査報告書・遺跡詳細分布調査報告書第16集別冊置賜地域の終末占墳1・高安窓跡群
古川市 古川市教育委員会	清水台遺跡・咲田遺跡・柳橋遺跡・八丁目館跡・大安塙古墳群-第4次発掘調査報告書・中塙遺跡・荒井猫田遺跡(II区)-第15次発掘調査報告書・石畳遺跡(第
名取市 名取市教育委員会	
仙台市 仙台市富沢遺跡保存館	
山形県 (財) 山形県埋蔵文化財センター	
米沢市 米沢市教育委員会	
東北芸術工科大学 東北芸術工科大学考古学研究室	
福島県 (財) 郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団	

(財)いわき市教育文化事業団	1・2次)・馬場中路遺跡(第2次)・馬場小路遺跡(第2次)、郡山市埋蔵文化財分布調査報告10、郡山を掘る いわき市教育文化事業団研究紀要第12号、夏井廃寺・平成14年度範囲確認調査概報、薄磯貝塚(→反田B遺跡)、中山B遺跡・荒田目条里制遺構、折返B遺跡、牛軒古墳群・小茶円遺跡・砂畠遺跡・内宿遺跡・作B遺跡・稻荷原遺跡・荒田目条里制遺構・砂畠遺跡・小茶円遺跡・植田B遺跡・泉・波辺町条理遺跡・網取貝塚・折返A遺跡・菅俣B遺跡・入藪B遺跡・湯長谷館跡・磐崎中学校遺跡・梅ノ作瓦窯後群・代東遺跡
(財)福島市振興公社	宮畑繩文人からのメッセージ、平成13年度宮畑繩文探検隊活動報告書・宮畑遺跡3、宮畑遺跡確認調査概報、郡下遺跡・腰浜遺跡2・浜井町古墳群・腰浜遺跡3、西川子坂遺跡・鎧塚遺跡3、平成14年度遺跡詳細分布調査報告(試掘調査)、神名山D遺跡・八乙女A遺跡・鎧塚遺跡・猿内船跡・福島城跡 季刊博物館だより69
福島県立博物館	年報22、研究ノート12号、下大井遺跡2、市ノ台屢敷遺跡・横内向山遺跡・御園生遺跡・高名八幡前遺跡・羽黒遺跡・鳥名ツバタ遺跡・中山遺跡・岡の宮遺跡・北田遺跡・塙谷津遺跡・二の沢A遺跡・二の沢B遺跡・ニガサワ古墳群・金田西遺跡・金田西坪B遺跡・九重東岡廃寺・下小池遺跡・ヲサルド遺跡・反子遺跡・大高田遺跡・前須遺跡・谷ノ沢遺跡・手接遺跡・花房遺跡・大日遺跡・堂東遺跡・島名熊の山遺跡・島名前野東遺跡・大戸下郷遺跡・篠崎A遺跡・戸崎中山遺跡・石井遺跡群・袋内A遺跡・官女平遺跡・辰海道遺跡1・辰海道遺跡2・当向遺跡1・金谷遺跡1・松谷古墳群・中山遺跡・福原打越塚群・上加賀宮後東遺跡・高幡遺跡・茂加東遺跡・犬田山神古墳・犬田神社前遺跡1・島名一町田遺跡・島名間ノ台南B遺跡・面野井北ノ前遺跡・内海道遺跡 平成14年度市内遺跡発掘調査報告書・ひたちなか埋文だより第17号～第18号
(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社	見てみよう聞いてみよう！その10、フィールドノートvol15、ほんぱり山遺跡・猪谷津遺跡・向野V 阿ら地遺跡・山川古墳群確認調査・西谷津遺跡・北西原遺跡(第6次調査)・神明遺跡(第4次調査)
土浦市教育委員会	土浦市立博物館紀要第13号
土浦市立博物館	青と白への憧憬・般若守遺跡と常陸の中世寺院遺跡・上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第8号～第9号 筑波大学先史学・考古学研究第13号～第14号
筑波大学先史学・考古学コース	埋蔵文化財センター年報第13号、研究紀要第11号、やまかいどうNo.33～No.35、栃木県埋蔵文化財保護行政年報25、鳴井上遺跡・荻ノ平遺跡・野沢遺跡・野沢石塚遺跡・高林遺跡・西下谷田遺跡・東谷・中鳥地区遺跡群3・霞内西遺跡・彈正遺跡・藤岡神社遺跡II 小山市文化財保護調査年報8
(財)とちぎ生涯学習文化財団	埋蔵文化財センター年報第13号、研究紀要第11号、やまかいどうNo.33～No.35、栃木県埋蔵文化財保護行政年報25、鳴井上遺跡・荻ノ平遺跡・野沢遺跡・野沢石塚遺跡・高林遺跡・西下谷田遺跡・東谷・中鳥地区遺跡群3・霞内西遺跡・彈正遺跡・藤岡神社遺跡II 小山市文化財保護調査年報8
小山市教育委員会	埋蔵文化財センター年報第13号、研究紀要第11号、やまかいどうNo.33～No.40、遺跡に学ぶ第21号～第22号、平成13年度地域教材開発研究・研修報告書・平成14年度地域教材開発研究・研修報告書・荒紙上譜遺跡II・年報21、「国際シンポジウム・埋蔵文化財と学校教育」報告書・二之宮宮下西遺跡・白井遺跡群・集落編II・西長岡南遺跡II・III・白井遺跡群・繩文時代編・和田山天神前遺跡・波志江中宿遺跡・上北桜木町北遺跡・西田遺跡・村中遺跡・波志江西宿遺跡I・伊勢山遺跡・光仙房遺跡・福島曲戸遺跡・上福島遺跡・西横手三波川遺跡・西横手遺跡群・徳丸仲田遺跡(2)・下増田越渡遺跡・菅谷石塚遺跡・青梨子上屋敷遺跡・金古北十三町遺跡2・荒砥譜訪西遺跡II・荒砥譜訪遺跡・波志江西屋敷遺跡・福島久保田遺跡・福島大光坊遺跡・上福島
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	埋蔵文化財センター年報第13号、研究紀要第11号、やまかいどうNo.33～No.40、遺跡に学ぶ第21号～第22号、平成13年度地域教材開発研究・研修報告書・平成14年度地域教材開発研究・研修報告書・荒紙上譜遺跡II・年報21、「国際シンポジウム・埋蔵文化財と学校教育」報告書・二之宮宮下西遺跡・白井遺跡群・集落編II・西長岡南遺跡II・III・白井遺跡群・繩文時代編・和田山天神前遺跡・波志江中宿遺跡・上北桜木町北遺跡・西田遺跡・村中遺跡・波志江西宿遺跡I・伊勢山遺跡・光仙房遺跡・福島曲戸遺跡・上福島遺跡・西横手三波川遺跡・西横手遺跡群・徳丸仲田遺跡(2)・下増田越渡遺跡・菅谷石塚遺跡・青梨子上屋敷遺跡・金古北十三町遺跡2・荒砥譜訪西遺跡II・荒砥譜訪遺跡・波志江西屋敷遺跡・福島久保田遺跡・福島大光坊遺跡・上福島

群馬県立歴史博物館	中町遺跡・久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡・福荷塚道東遺跡・年保遺跡・鳥山遺跡・中内村前遺跡(2)・元総社西川・塙田中原遺跡・荒砥宮田遺跡I・上増田島遺跡・下増田常木遺跡・梁場遺跡・多田山古墳群・舞合遺跡(2)・前沖遺跡・縄文土器が語る群馬の風土・群馬の中近世 群馬県立歴史博物館紀要第24号
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	年報23、研究紀要第18号、谷ツ遺跡・池上／諫訪木、東原遺跡、如意遺跡IV、北島遺跡Ⅰ、木津内貝塚、官西遺跡、中尾跡島遺跡II 埼玉県立埋蔵文化財センター年報13、埋文さいたま第42号 飯能の遺跡(31)、飯能文化財時報第129号～第130号 地慶沼遺跡発掘調査報告書、若宮遺跡・東遺跡発掘調査報告書、泉橋遺跡・三ツ木遺跡発掘調査報告書 浜川戸遺跡8、10次・花種台耕地遺跡6次・慈恩寺原南遺跡・塙内18号墳
埼玉県立埋蔵文化財センター 飯能市教育委員会 鶴ヶ島市教育委員会	
春日都市教育委員会	
(財)印旛都市文化財センター	財團法人印旛都市文化財センター年報18、フィールドブックvol.13～vol.14、一之綱Ⅱ遺跡・一之綱Ⅲ遺跡・大袋腰巻遺跡(第11地点)、南羽島遺跡群IV、川梨遺跡群II・曾谷ノ庭瓦窓跡(第2地点)、大久保遺跡(第2・3地点)、内田端山越窓跡・吉見櫛荷山遺跡(第5次)・六崎貴舟台遺跡(第10次)・下金山城跡・牛谷松山遺跡(第2次) 昔むかしのかずさvol.2君津都市文化財センター年報No.20、きみさらす第21号、西原遺跡III・前原遺跡・藏波皆跡II 文化財かわら版第14号・上引切道跡・三田古墳群・中台遺跡1349.3地点・遠山瓜ヶ作谷遺跡・遠山瓜ヶ作台遺跡 市原市文化財センター研究紀要IV、市原市文化財センター年報・平成12年度、市原市縄文台遺跡、発掘ってなあに・縄文土器篇・埋文いちはら13、私たちの文化財26、市原市加茂遺跡D地点 千葉市内野第1遺跡発掘調査報告書第I分冊、千葉市内野第1遺跡発掘調査報告書第II分冊・千葉市内野第1遺跡発掘調査報告書第III分冊、千葉市都町山王遺跡・千葉市後谷遺跡・千葉市海老遺跡・川崎遺跡・草刈場北遺跡・味噌草野遺跡・千葉市土気東遺跡群I・千葉市生実城跡・昭和63年度・平成3～6年度調査へ千葉市文化財調査協会年報14 加止里第8号・事業報告XII・平成13年度・大塚遺跡群保田遺跡・大塚遺跡群保田遺跡II・堺原遺跡・遺物編・堺原遺跡・遺構編・仲仁良I遺跡・多古台遺跡群III 東總文化財センター年報8、設立10周年記念論集、椎柴小学校遺跡・平台遺跡・八重崎横穴墓群・岡子塚遺跡 千葉県文化財センター年報No.28、房総の文化財 vol.30～vol.33、研究速報誌第65号・欠那川ダム埋蔵文化財調査報告書1、千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書12、佐倉市鳥羽外海道遺跡・印西市新井廻1遺跡・新井堀1野馬土手・千葉東南部ニュータウン26・松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書1・野田市鳥居崎遺跡・新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XVII、千原台ニュータウンⅦ・千原台ニュータウンⅨ・船橋市東中山台遺跡群第19次調査地点・県道千葉白井印西線歩道建設に伴う埋蔵文化財調査報告書2、成田国際物流複合基地埋蔵文化財調査報告書2、主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書、旧296号線代替用地内埋蔵文化財調査報告書、主要地方道成田松尾線XVI・東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書12・新鎌ヶ谷地区埋蔵文化財調査報告書1・千葉東南部ニュータウン27・東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書1 埋蔵文化財調査センター年報15 上原遺跡・岩名貝塚
(財)千葉市教育振興財团 野田市教育委員会	

芝山町教育委員会 国立歴史民俗博物館	平成14年度芝山町内遺跡発掘調査報告書 国立歴史民俗博物館研究報告第98集～108集・第113集・第116集、歴博122、 国立歴史民俗博物館研究年報11、はにわ・形と心。 貝塚博物館紀要第30号
千葉市立加曾利貝塚博物館  (財) 東京都生涯学習文化財団	たまのよこやま No.58～No.59、東京都埋蔵文化財センター年報23、資料目録 13、多摩の3万年を訪ねて、多摩ニュータウン遺跡・No.20・480遺跡・、多摩ニュータウン遺跡・No.72・795・796遺跡・、多摩ニュータウン遺跡・No.243・244遺跡・、 多摩ニュータウン遺跡・No.313遺跡・、多摩ニュータウン遺跡・No.436遺跡・、東寺方・落川北・落川南遺跡・、狹山遺跡・、沙留遺跡Ⅲ・、南田中三丁目遺跡・、田島遺跡・、 富士見台三丁目遺跡・、多摩ニュータウン遺跡・、大六天遺跡・、大橋遺跡・、宇和島藩伊達家屋敷跡遺跡・、信濃町南遺跡・、武藏国分寺遺跡北方地区第1分冊・ 第2分冊・、第3分冊・、下野谷遺跡第11次調査・、永田町二丁目遺跡・、武藏国府関連遺跡・、 宇和島藩伊達家屋敷跡遺跡・、鍛冶屋敷・池の下遺跡・、武藏国府関連遺跡・、 外神田四丁目遺跡
宮内庁 文化庁 北区教育委員会 葛飾区教育委員会	出土品展示目録 填輪Ⅲ・填輪Ⅳ・、吉陵部紀要第54号 埋蔵文化財関係統計資料 御殿前遺跡Ⅳ・、南橋遺跡Ⅲ・、宿遺跡Ⅱ・、大六天遺跡 平成13年度葛飾区埋蔵文化財調査年報・、平成14年度葛飾区埋蔵文化財調査年報・、 上千葉遺跡Ⅲ・、本郷遺跡Ⅲ・、前津遺跡Ⅲ・、葛西城X X I・、葛西城X X II 御所水遺跡・、石川遺跡発掘調査報告書・、打越小ザス遺跡 東京都創立市埋蔵文化財年報・、平成13年度・、下布田古墳群の調査・、郷土博物館だよりNo.64・、調布市文化財第33号～第34号・、下石原遺跡・、第37地点の調査(その1)・、 下布田遺跡・、第54地点の調査・、古代編・、下石原遺跡・、第37地点の調査(その2)・
八王子市教育委員会 調布市郷土博物館	資料館だより第51号～第53号・、港郷土資料館年報・21・、研究紀要7・、尾崎紅葉・、 旗本柴田家屋敷跡・、勝安房邸跡発掘調査報告書 鍛冶屋敷遺跡・、日南田遺跡(第2次) 明治大学博物館同書上巻第6号・、明治大学博物館年報2002年度 人類誌情報2002 青山史学第二十一号 古代111号・、113号 日本全国書誌
港区立港郷土資料館  (株) 武蔵文化財研究所 明治大学博物館 東京都立大学考古学研究室 青山学院大学史学研究室 早稲田大学 国立国会図書館	埋蔵文化財発掘調査概報集XI 神名久保遺跡・、第8地点・、山王A遺跡・、第5地点・ 平塚市真田・、北金目遺跡群発掘調査報告書3・、平塚市真田・、北金目遺跡群発掘 調査報告書4 藤沢市文化財調査報告書第38集
横須賀市教育委員会 平塚市教育委員会 平塚市真田・、北金目遺跡調査会  (財) 富山県文化振興財団	埋蔵文化財年報(14)・、埋蔵文化財調査概要・、平成14年度・、宮山考古学研究第6号・、 江尻遺跡・、袁島遺跡発掘調査報告・、中名・、V遺跡発掘調査報告・、北陸新幹線 関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(3)・、能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査 報告・、勧使塚古墳・、永代遺跡・、安居窯跡群・、中山中遺跡発掘調査報告 埋文とやま第82号～第85号・、宮山県埋蔵文化財センター年報・、平成13年度・、 富山県埋蔵文化財センター年報・、平成14年度・、武士と茶の湯 魚津市歴史民俗博物館要覧・30年のあゆみ・ 増山城跡VI・、増山城跡発掘調査報告 桜町遺跡発掘調査報告書・、弥生・、古墳・、古代・、中世編I

石川県	高岡町遺跡II、上安原遺跡I - 繩文時代縦 - 、上安原遺跡II、昭和町遺跡II、石川県金沢市本町一丁目遺跡III、大友西遺跡II、畠田大蔵川遺跡、田上北遺跡、田上東遺跡、堅田B遺跡I、大桑ジョウデン遺跡I、金沢市横川・本町遺跡、中屋東遺跡、東長江遺跡、平成14年度金沢市埋蔵文化財調査年報 三室遺跡群発掘調査報告書
七尾市教育委員会	
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	一乗谷朝倉氏遺跡32・34、一乗谷朝食氏遺跡資料館紀要2002・2001
山梨県埋蔵文化財センター	研究紀要19、年報18、埋文やまなし第14号、2002年度下半期遺跡調査発表会要旨、北河原遺跡、野牛島・大塚遺跡、藤田池遺跡、大木戸遺跡、道々芽木遺跡(第3次)、宮の前遺跡、稻荷檜台石垣改修工事報告書、酒香場遺跡(第4次)、原町農業高校前(下原)遺跡(第1次)、當代遺跡、大ネギ遺跡 西表堤防遺跡、飯米場遺跡、宿尻遺跡、平成12年度蘿崎市内遺跡埋蔵文化財有無確認調査報告書、史跡新府城跡、石之坪遺跡(東地区)、上横屋遺跡、下木戸第2遺跡、羽根前遺跡、坂井南遺跡III、後田堂ノ前遺跡、宮ノ前第5遺跡、水無遺跡、坂井堂ノ前遺跡、後田第2遺跡、新田遺跡、枇杷遺跡、半郷田遺跡、宮ノ前第4遺跡、二反田遺跡、立石遺跡、宮ノ前第3遺跡、堂地遺跡II、上本田遺跡、堂地遺跡、伊藤庵第2遺跡、下横屋遺跡、北下条遺跡、北後田遺跡、下横屋第2遺跡、坂井南、史跡新府城跡、史跡新府城の自然、新府城と武田勝頼 海之木遺跡II 八ヶ岳考古 - 平成12年度年報 - ~ - 平成14年度年報 -
明野村教育委員会	
北巨摩郡町村文化財担当者会議	
長野県	長野県の考古学II、山の神遺跡、丸山遺跡、矢出川遺跡群 長野市埋蔵文化財センター所報No.14、松代城跡、吉田四ツ屋遺跡、三輪遺跡(6)・棗河原遺跡、駒沢城跡・中保遺跡II・古田占屋敷遺跡、上九反遺跡、寺村遺跡、西町遺跡、森河原遺跡(2)・田中沖遺跡III 神谷所遺跡I、大庭遺跡、笠根遺跡、笠根原遺跡、宮廻り遺跡、小田原遺跡 大久保原遺跡I、新村遺跡、出川南遺跡IV、出川南遺跡VII、惣社遺跡I、六九第4次、出川南遺跡VI、伊勢町第26・27・28次、棚の内遺跡III、県町遺跡III、平田本郷遺跡IV・V 長野県立歴史館たより vol.34 ~ vol.37
辰野町教育委員会	
松本市立考古博物館	
長野県立歴史館	
岐阜県	きずな第37号～第39号、平成14年度年報、尾元遺跡、寺平遺跡、丸石古窯跡群、杉ヶ洞3・5号古墳、前山2号墳、一本杉、茶屋下、改田遺跡、栗坪遺跡、野並遺跡II、深渡A地点遺跡 平成11・12年度各務原市山内遺跡発掘調査報告書、伊木山城跡、鶴沼西町古墳、かかみがはらの埋文第11号、鶴沼西町古墳発掘調査報告書、伊木山城址発掘調査報告書 鶴山仙道遺跡、平成13・14年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書、史跡加納城跡、平成12・13年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書 半布里遺跡
(財)岐阜県教育文化振興事業団	
富加町教育委員会	
静岡県	研究紀要第10号、静岡県埋蔵文化財調査研究所年報19、平成15年度静岡の原像をさぐる、研究所報No.103～No.106、有東遺跡、小鹿杉本堀合坪遺跡II、星久保古墳群、鉄平遺跡、大岡元長庭園関連遺跡I、藤守遺跡II、的場遺跡、すやん沢古窯跡、寺林遺跡、虎杖原古墳 東部土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書、県道浜松袋井線緊急地方道道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、国分寺、国分寺遺跡発掘
(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	
磐田市埋蔵文化財センター	

茨川町教育委員会 静岡市立登呂博物館	調査報告書・平成14年度~、近江国分寺跡特別史跡指定50周年記念フォーラム、土器塚古墳確認調査報告書、東武土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査の概要 大鹿窯遺跡・窯B遺跡(遺構編) 静岡市立登呂博物館館報13
(財) 愛知県埋蔵文化財センター (財) 潟戸市埋蔵文化財センター	まいぶん愛知 No.72 (財) 潟戸市埋蔵文化財センター研究紀要第11輯、平成14年度瀧戸市埋蔵文化財センター年報、江戸時代の焚燐焼、市内遺跡調査報告Ⅳ
南山大学人類学博物館 名古屋市見晴台考古資料館	展示資料図録、寄贈資料目録1 見晴台教室'02、名古屋市見晴台考古資料館年報20、見晴台遺跡39・40・41次発掘調査の記録、発掘された江戸時代の名古屋、名古屋市見晴台考古資料館研究紀要第5号、名古屋城三の丸遺跡、戸田B遺跡発掘調査報告書、朝日遺跡第11次発掘調査報告書、朝日遺跡第12次発掘調査報告書、天白元屋敷遺跡第4・5次発掘調査報告書、古沢町遺跡第3次発掘調査概要報告書、埋蔵文化財発掘調査報告書44~48
豊田市郷土資料館 名古屋大学考古学研究室	豊田市郷土資料館だより No.44~No.46、古城遺跡 名古屋大学文学部研究論集146
三重県埋蔵文化財センター	一般国道23号中勢道路 埋蔵文化財発掘調査概報XV、研究紀要第13号、みえ No.34~No.36、六大A遺跡発掘調査報告、覚正塚内遺跡発掘調査報告、伊坂城跡発掘調査報告、城ノ谷遺跡発掘調査報告、伊坂遺跡発掘調査報告、重地遺跡発掘調査報告、東前遺跡発掘調査報告、市場遺跡発掘調査報告、田面遺跡発掘調査報告、山添遺跡(第3次) 発掘調査報告、野添遺跡発掘調査報告
津市埋蔵文化財センター	埋文センターニュース第17号~第18号、津市埋蔵文化財センター年報8、向山遺跡発掘調査報告
鈴鹿市教育委員会 上野市教育委員会 上野市遺跡調査会 鶴野町教育委員会	伊勢国分寺跡3、伊勢国府跡5 上野市埋蔵文化財年報9 十王下遺跡発掘調査報告・百田氏館跡発掘調査報告 嬉野町文化財調査概要、釜生田辻垣内瓦窯跡尾と嬉野の古代寺院、上尾戸塗跡群、まんじゅう山古墳群
阿児町教育委員会 鈴鹿市考古博物館	長尾遺跡発掘調査報告 鈴鹿市考古博物館年報第4号、発掘された国府、近畿・東海の同府 発表要旨集、弥生時代の石器、繩文と弥生の間・伊勢湾西岸の土器・墓・住まい~、発掘された鈴鹿 2002、磯山銅鐸の時代、文字瓦を考える
上野市遺跡調査会	十王下遺跡発掘調査報告・百田氏館跡発掘調査報告
滋賀県埋蔵文化財センター (財) 滋賀県文化財保護協会	滋賀文庫ニュース No.275号~No.285号 火振り祭・芝出楽、歴史と伝説の虎御前山、巨大環濠集落 下之郷遺跡、近江の懸仏(上)
能登川町埋蔵文化財センター (財) 栗東市文化体育振興事業団	能登川町埋蔵文化財調査報告書第54集、神郷龟塚古墳 栗東町埋蔵文化財発掘調査2000年度年報・2001年度年報、1985年度栗東町埋蔵文化財発掘調査資料集、1986年度栗東町埋蔵文化財発掘調査資料集、はっくつ20、はっくつ2002、栗東の交通、古墳と古代の役所
滋賀県教育委員会	溝遺跡・井ノ口遺跡、木部遺跡II、金田遺跡、大供養寺遺跡、泉塚越古墳、宮沢城遺跡、敏満寺遺跡、東谷遺跡、北牧野古墳群、柴原南遺跡、内野遺跡、塚立古墳群、新宮神社遺跡、市遺跡、靈仙寺遺跡、御倉遺跡II、柳遺跡I・下戸刈遺跡、上平守遺跡、守林遺跡
大津市教育委員会 滋賀県立安土城考古博物館	大津市埋蔵文化財調査年報・平成13(2001)年度・ おおてみち第43号~第46号

大津市歴史博物館 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立大学考古学研究室 坂田郡社会教育研究会文化財部会 京都府 (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター (財) 京都市埋蔵文化財研究所	大津歴博だより No.51～No.53、大津市歴史博物館年報・平成12・13年度・うみんと第27号～第31号 人間文化第13号～第14号 佐加太第18号 京都府埋蔵文化財情報第87号～90号 平成12年度京都市埋蔵文化財調査概要、平安京左京北辺四坊、史跡賀茂御祖神社境内、草木町遺跡、白河街区・岡崎遺跡、平安京右京三条一坊三町（右京職）跡、平安宮塗室跡、平安宮左馬寮・御井・農業院跡、平安京右京三条二坊十五町・三坊二町跡、東寺（教王護国寺）旧境内、鳥羽離宮跡、下鳥羽遺跡、特別史跡・特別名勝・施菴寺（金閣寺）庭園、平安京右京三条一坊七町跡、史跡名勝嵐山、史跡旧二条離宮（二条城）、平安宮神祇官、平安京冷然跡、史跡旧二条離宮（二条城）、植物園北遺跡、史跡木鷲坐天照御魂神社（蚤ノ社）境内、史跡妙心寺境内・平安京右京一条四坊八町跡、白川街区跡、岡崎遺跡、鳥羽離宮跡、長岡京右京一条四坊十二・十四町跡、平安京右京三条四坊十四町跡、四条四坊十六町跡、平安京右京四条四坊十五町・十六町跡、平安京右京三条一坊三・六・七町跡、平安京左京三条三坊十町（押小路殿・二条殿）跡、平安京左京一条四坊九町跡、史跡・慈照寺（銀閣寺）旧境内 京都市内遺跡発掘調査概報・平成14年度・、京都市内遺跡立会調査概報・平成14年度・、京都市内遺跡調査概報・平成14年度・ 年報都城14・15・長岡京跡はか・久々相遺跡 日吉ヶ丘遺跡・明石大師山古墳群・湧江遺跡（第5次） 園部町小山東町土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書・内林町土地区画整理事業に係る都市計画道路（京都光悦線）建設に伴う発掘調査概報 京都市考古資料館年報平成13・14年度、リーフレット京都 No.159～No.182 文化財学概論
京都市埋蔵文化財調査センター (財) 向日市埋蔵文化財センター 加悦町教育委員会 團部町教育委員会	
京都市考古資料館 京都橘女子大学	
大阪府 (財) 大阪市文化財協会 (財) 八尾市文化財調査研究会	大阪歴史博物館研究紀要第1号～第2号 20年のあゆみ・平成14年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告・久宝寺遺跡第29次発掘調査報告書・財団法人八尾市文化財調査研究会報告75・76
(財) 枚方市文化財研究調査会	枚方市文化財年報23～24、ひらかた文化財だより第53号～第56号・禁野本町遺跡II
高槻市立埋蔵文化財調査センター	高槻市文化財年報平成13・14年度、史跡・今城塚古墳・平成13年度・第5次規模確認調査・山上遺跡群27・28
堺市立埋蔵文化財センター	堺市文化財調査概要報告第98冊～第101冊、堺埋蔵文化財だより第16号・平成14年度閔谷補助事業発掘調査報告書
(財) 大阪府文化財調査研究センター	伽羅橋・池島・福万寺遺跡2・栗生岡谷遺跡・旧石器・縄文時代編・漆造新他、栗生岩阪北遺跡・宿久庄北遺跡・佐保遺跡・郡戸遺跡・豊川遺跡・人和川今池遺跡（その5・その6・その7）、玉櫛遺跡II
泉南市埋蔵文化財センター (財) 大阪府文化財センター	古代史博物館平成14年度簡報 難波宮跡北西部の調査、考古学と実年代・考古学が歴史を変える、最古の土師器・庄内式土器の誕生・カルチュアはっとり No.1～No.3、大文研通信 No.24～No.26、大坂城跡の調査、牛報平成14年度・民家集落ふるさとだより第22号・大阪文化財研究会第23号・第24号・大阪府埋蔵文化財研究会（第47回）資料・池島・福万寺遺跡発掘調査概要31・勝部遺跡・讚良郡条理遺跡・寝屋南遺跡・寝屋東遺跡・倉治遺跡・津田城遺跡・久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書IV・久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書V・淀川河床遺跡（その1）、蟹池遺跡02-1・瓜生堂遺跡2・讚良郡条理遺跡（その1）、尺度遺跡II・小路遺跡（その3）、栗生岡谷遺跡・古代・中世編・杉遺跡・大尾遺跡・一般国道1号バイパス（大阪北道路）建設に伴う埋蔵文化財確認調査報告書・新上小阪遺跡・駒ヶ谷遺跡II・尺度遺

豊中市教育委員会	跡Ⅱ、讚良郡条理遺跡（その2）、太秦古墳群 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要・平成14（2002）年度、文化財ニュース豊中No.29・No.30、津山松平藩町奉行日記十一、施積遺跡第14次・第15次発掘調査報告、箕輪遺跡・第1次発掘調査報告書・ 古代日本と百済、村野村高札場 保存修理工事概報、枚方市埋蔵文化財発掘調査概要2002
枚方市教育委員会	東大阪市教育委員会
東大阪市教育委員会	東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報・平成14年度・、東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告・平成14年度・、善根守遺跡第1次発掘調査概要報告・段上遺跡第13次発掘調査報告書 たじひのだより No.2～No.3
貝塚市教育委員会	三ヶ山西遺跡発掘調査概要、貝塚市遺跡群発掘調査概要20、鷺浜川端遺跡発掘調査概要、貝塚市遺跡群発掘調査概要21、津田北遺跡発掘調査報告書、沢城跡発掘調査概要、貝塚市遺跡群発掘調査概要25
泉佐野市教育委員会	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要・平成14年度・、泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要第44号
泉南市教育委員会	泉南市遺跡群発掘調査報告書XX、北野遺跡発掘調査報告書、海会寺跡発掘調査報告書
吹田市教育委員会	平成14年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報、吹田市五反島遺跡発掘調査報告書・遺物編・、大光寺太子館、吹田の石造物・神社編・ 弥生俱楽部vol.25、弥生文化博物館要覧・平成14年度・、弥生創世記・検証・紀文から弥生へ・、金は天下のまわりもの・、森本六爾・小林行雄と佐原真博物館だより・アスカディア・古墳の森vol.18～vol.21、大阪府立近つ飛鳥博物館館報8、黄泉のアクセサリー・古墳時代の装身具・、壁画古墳の流れ・高松塚とキトラ・ 吹田市文化財ニュースNo.24、江戸時代の大工さん、博物館だよりNo.21、山寺の聖たち・その信仰と物語・、古代祭祀を語る・五反島遺跡と古代祭祀・、吹田市立博物館館報3
堺市博物館	堺発掘物語・古墳と遺跡から見た堺の歴史・ 行基の構築と救済
大阪府立狭山池博物館	発掘された埴輪郡と今城塚古墳
高槻市立しろあと歴史館	八尾市立歴史民俗資料館報・平成13年度・、研究紀要第14号
八尾市立歴史民俗資料館	久留米藩蔵屋敷跡
大阪大学埋蔵文化財調査室	ひょうごの遺跡第46号～第50号、茶すり山古墳、楠・荒田町遺跡、法難遺跡、白沢放山遺跡、福島平唐山遺跡、福島古墳群、福島龍王谷遺跡、北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅳ、有岡城跡、伊丹郷町Ⅲ、八多中遺跡発掘調査報告書、上脇遺跡Ⅰ、上脇遺跡Ⅱ、和田神社遺跡、勝手野古墳群、梅田東古墳群、兵庫津遺跡Ⅰ、天神前遺跡、山中遺跡、北田遺跡、十倉遺跡、田中一の坪遺跡、西後明40号窯、東中道ノ坪遺跡、八上上遺跡、境谷遺跡、播磨国分尼寺跡、縁ヶ丘窓跡群Ⅲ、明石城武家屋敷跡Ⅱ、北谷・中内台地遺跡、六条遺跡、梅田古墳群Ⅱ、太市中古墳群、カヤガ谷古墳群、大谷古墳群、坪井遺跡、二ツ石峠ノ前遺跡、中津原遺跡、板井寺ヶ谷遺跡・紀文時代～中世の調査・
兵庫県	熊内遺跡第3次調査、新方遺跡、平成12年度神戸市埋蔵文化財年報、大手前遺跡、今池尻遺跡、新方遺跡平松地点、古代の音色、松野遺跡・水笠遺跡、御藏遺跡、御藏遺跡V 特別史跡姫路城跡Ⅱ、姫路市埋蔵文化財調査略報・平成13年度・ 三田文化財情報平成12年度合冊号、三田文化財情報平成14年度合冊号、三田焼の狂犬（下）
神戸市教育委員会	尼崎市埋蔵文化財調査年報平成7年度（4）、平成11年度尼崎市内遺跡復旧・復興事業に伴う発掘調査
姫路市教育委員会	
三田市教育委員会	
尼崎市教育委員会	

姫路市立城郭研究室 加古川市教育委員会 加東郡教育委員会 太子町教育委員会 佐用郡教育委員会 赤穂市立歴史博物館 播磨町郷土資料館 大手前大学史学研究所	城郭研究室年報 vol12 文化財ニュース No.46、手古遺跡発掘調査報告書 藤田・一ノ谷遺跡、黒谷・岡ノ上遺跡、埋蔵文化財調査年報-2001年度- 松尾寺跡遺跡・斑鳩寺跡 平成13年度埋蔵文化財調査年報、平成7年度埋蔵文化財調査年報 第3回収蔵庫展、近謙・近代赤穂の美 輝く播磨国、箱報 vol.14 大手前大学史学研究所紀要第1号～第2号、海峡を越える技術の交流
奈良市埋蔵文化財調査センター	奈良市埋蔵文化財調査概要報告書・平成12年度・、奈良市埋蔵文化財調査センター紀2001、西隆寺跡発掘調査報告書、平城京跡出土墨書き土器資料I（第一分冊）、平城京跡出土墨書き土器資料I（第二分冊）
桜井市立埋蔵文化財センター	桜井市内埋蔵文化財1997年度発掘調査報告書2、桜井市内埋蔵文化財2001年度発掘調査報告書1、桜井市内埋蔵文化財2002年度発掘調査報告書1、磐余の遺跡探訪、纏向へ行こう！、カタハラ古墳発掘調査報告書、磐余遺跡群発掘調査概報II、平成14年度同庫補助による発掘調査報告書
奈良文化財研究所 橿原市教育委員会 大和高田市教育委員会	考古科学の総合的研究、古代の官衙遺跡I・遺構編・、埋蔵文化財ニュース No.111～No.113 橿原市埋蔵文化財発掘調査概報 池田遺跡、かん山遺跡1次調査、インキ山古墳、大和高田市内遺跡発掘調査報告
田原本町教育委員会	田原本町埋蔵文化財調査年報11～12、田原本2002発掘速報展 vol.7、2000年の時間を越えて
橿原町教育委員会	中山間地域総合整備事業埋蔵文化財発掘調査概要報告書、橿原町埋蔵文化財発掘調査概要報告書2000年度・2001年度
大字陀町教育委員会 (財)元興寺文化財研究所	ゆめのあと・宇陀松山城(秋山城)跡I、宇陀松山城(秋山城)跡(遺構編) 筑後市内遺跡群V、中の池遺跡・第8次調査～、元興寺文化財研究所研究報告2002、元興寺文化財研究 No.82・No.83
天理大学考古学研究室 天理大学附属天理参考館 奈良大学文学部文化財学科	古事記7譜 天理参考館報第16号 文化財学報第二十一集
(財)和歌山市文化体育振興事業団	発掘物語2003、太田・黒田遺跡第45次発掘調査概報、太田・黒田遺跡第48次発掘調査概報、太田・黒田遺跡第52次発掘調査概報、史跡和歌山城第25・26次発掘調査概報、和歌山城跡第9次発掘調査概報
(財)鳥取県教育文化財団	青谷上寺地遺跡6、古御堂兼尾山遺跡、茶畑第1遺跡、笠見第3遺跡、井団地頭遺跡、井団地中ソネ遺跡、妻木法大神遺跡、名和衣装谷遺跡・古御堂金成ヶ平遺跡、名和乙ヶ谷遺跡、青谷遺跡群、橋本遺跡群
(財)米子市教育文化事業団	埋蔵文化財調査年報4、米子城跡第38次調査、古谷屋奈ヶざこ遺跡、吉谷龜尾ノ上遺跡、橋本德道西道跡、日久美道跡跡、日久美遺跡Ⅸ・X、陰山丘陵ノ谷遺跡
鳥取県教育委員会	国史跡妻木晚田遺跡整備活用基本計画、上代因伯史考古編、妻木晚田遺跡発掘調査研究年報2002、史跡妻木晚田遺跡第4次発掘調査報告書
倉吉市教育委員会	向野遺跡第2次発掘調査報告書、下前田遺跡発掘調査報告書、クズマ遺跡第3次発掘調査報告書、倉吉市内遺跡分布調査報告書12
米子市教育委員会 宍道町教育委員会 鳥取県立博物館	平成12・13年度米子市内遺跡発掘調査報告書 福岡柳谷遺跡、百塚遺跡群Ⅸ、日吉塚古墳 古代寺院関係資料集

■概要

島根県埋蔵文化財調査センター

島根県古代文化センター

(財)松江市教育文化振興事業団

弥栄村教育委員会

島根県立八雲立つ風土記の丘資料館

庵高町立歴史民俗資料館

島根大学埋蔵文化財調査研究センター

■開拓業

岡山県古代吉備文化財センター

津山弥生の里文化財センター

岡山市埋蔵文化財センター

デジタルミュージアム開設準備室

岡山県教育委員会

備前市教育委員会

井原市教育委員会

総社市教育委員会

矢掛町教育委員会

勝央町教育委員会

奥津町教育委員会

瀬戸町教育委員会

建部町教育委員会

蒜山教育事務組合教育委員会

寄島町教育委員会

津山郷土博物館

倉敷市立自然史博物館

岡山県立美術館

岡山県立吉備路郷土館

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

岡山理科大学

岡山市立オリエント美術館

倉敷市史研究会

岡山県遺跡保護調査企団事務局

高梁川の水と緑を守る会

ドキ土器まいぶん No.21～No.24、島根県遺跡地図 I (出雲・隱岐編)、埋蔵文化財調査センター年報11、斐伊川放水路発掘物語総集編、石見銀山遺跡総合調査概報 (3)、石見銀山遺跡ニュース No.5、出雲地方における前方後円墳の出現とその時代、西 I 遺跡・紙岡原 I 遺跡・石橋 I 遺跡・高瀬城北遺跡、殿潤山遺跡・獅子谷遺跡 (2)、神原 II 遺跡 (3)、戸谷遺跡、板屋 II 遺跡 (2)、貝谷遺跡 (2)、丸山金星子遺跡、石見銀山、西川津遺跡IX、弥生時代の磨製石器、椎原山城跡・椎原山石切場跡・白石谷遺跡・三田谷 I 遺跡・古志本郷遺跡V・古志本郷遺跡VI、長廻遺跡 (vol.2)・椎原山古墳・尾白 I 遺跡・尾白 II 遺跡・家ノ脇遺跡3区・川平 I 遺跡・家の後 I 遺跡・垣の内遺跡・史跡出雲国跡 -1-

宮古古墳群の研究

法吉遺跡発掘調査報告書

長安本郷神代屋遺跡

八雲立つ風土記の丘 No.173～No.176

森のめぐみ・島根県出土木製品集成、奥才古墳群第8支群、下谷遺跡・稗田遺跡

島根大学構内遺跡第11次調査 (櫛縄手地区2)

所報古墳第34号・第35号、苦田ダム建設に伴う発掘調査1、田井たれをす遺跡・田井ちご池遺跡・岡東高塚遺跡・北坂夷遺跡・津島遺跡4、前内池遺跡・前内池古墳群・佐古遺跡・岡山城二の丸跡

津山弥生の里第10号・橋本塚古墳群

妹尾住田遺跡・岡山市埋蔵文化財センター年報2、中尾平山遺跡

岡山学こと始め第2号

岡山県埋蔵文化財報告33

伊部南大窓跡周辺窓跡群確認調査報告書I

東大谷 I 号墳

総社市埋蔵文化財調査年報12、総社市埋蔵文化財発掘調査報告16

清水谷遺跡 (袖木地区)

勝央町遺跡地図

福見 I 遺跡・大神宮原遺跡群

史跡万富東大寺瓦窯跡

建部町文化財マップ

東遺跡 I

福井山遺跡

波来人・博物館より No.39、道家大門・花土文太郎文庫資料目録・津山松平藩町奉行日記 I

倉敷市立自然史博物館研究報告第18号・倉敷市立自然史博物館報9～11、宇野確雄植物コレクション (11)

美術館ニュース No.61～No.64

吉備路郷土館より No.27

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2002、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第30号・第31号・津島國大遺跡11～14

自然科学研究研究所研究報告第28号・岡山理科大学紀要第38号 A 自然科学・岡山理科大学紀要第38号 B 人文・社会科学、吉井川・流域を科学する Part1・備前焼を科学する

岡山市立オリエント美術館研究紀要15・19

倉敷市史紀要第13号・第14号・新修倉敷市史第4巻「近世(下)」

岡山県遺跡保護調査40年のあゆみ

高梁川流域の自然第26号

■広島県

(財) 広島県埋蔵文化財調査センター

ひろしまの遺跡第93号、灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅲ)、灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅳ)、灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅵ)、布掛遺跡・大仙1号遺跡・大仙2号遺跡発掘調査報告書

(財) 広島県教育事業団

ひろしまの遺跡第94号、近世山陽道跡・日向一里塚・右立炭窯跡、みちた第2・3号古墳・三太刀遺跡(Ⅱ)、宮脇遺跡発掘調査報告書、寺山城跡、道上第2・3・5号墳・門前2号遺跡、川高遺跡、下郷遺跡

(財) 東広島市教育文化振興事業団

文化財論究第2集、西本6号遺跡発掘調査報告書2、鴻巣東1分遺跡発掘調査報告書、福成寺山境内遺跡発掘調査報告書、鴻巣東1・2号遺跡発掘調査報告書、市内遺跡緊急調査報告書、吉光谷遺跡発掘調査報告書Ⅰ、吉光谷遺跡発掘調査報告書Ⅱ、青谷1号遺跡発掘調査報告書、原の谷古墳・原の谷遺跡発掘調査報告書、時宗遺跡発掘調査報告書、史跡安芸同分寺跡発掘調査報告書Ⅴ

(財) 吉田町地域振興事業団

耳塚古墓・郡山大通院谷遺跡(中世編)、郡山大通院谷遺跡(古代編・西地点編)

広島県教育委員会

可部寺山第5号古墳・可部寺山2号遺跡発掘調査報告書

福山市教育委員会

大谷古墳

尾道市教育委員会

尾道市内遺跡、尾道市内遺跡2002年度

広島県立歴史民俗資料館

西と東の弥生土器・卑弥呼の時代の安芸・備後・牟報第3号、広島県立歴史民俗資料館研究紀要第4集、歴風第35号～第37号、学習支援ワークシート①～④

■山口県

山口県埋蔵文化財センター

東禅寺・黒山遺跡、矢田遺跡・中院遺跡、竜王南遺跡Ⅱ・吉永遺跡(V地区)、下太田遺跡、陶ケん第16号

阿東町教育委員会

阿東町の遺跡

下関市立考古博物館

玉つくり・原石に輝きを求めて、あやらぎNo.9・No.10、下関市立考古博物館年報8、研究紀要第7号

■香川県

(財) 徳島県埋蔵文化財センター

徳島県埋蔵文化財センター年報vol.13、探訪!ふるさとの史跡、矢野遺跡(Ⅰ)、四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告18、矢野遺跡(Ⅱ)(縄文時代篇)、徳島城下町遺跡・出来島本町1丁目地点

■香川県

(財) 香川県埋蔵文化財調査センター

空港跡地遺跡(K地区)、尾端遺跡、いにしえの讃岐第36号～第39号、平成14年度埋蔵文化財発掘調査概報、財团法人香川県埋蔵文化財調査センター年報平成14年度、寺田・産官通遺跡・南天枝遺跡、北原2号墳・北原遺跡・山南遺跡、小谷窯跡・塚谷古墳・中東遺跡、高松城跡(丸の内地区)、財團法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要X、高松城跡(西の丸町地区)Ⅱ、高松城跡(西の丸町地区)Ⅲ、空港跡地遺跡VI、原間遺跡Ⅱ、柄端遺跡、邊田石垣遺跡・邊田谷川下池遺跡・鹿庭遺跡・大王谷遺跡・池の奥遺跡・金毘羅山遺跡Ⅱ

高松市教育委員会

天満・宮西遺跡・集落・水田廻・高松城跡(松平人蔵家中屋敷跡)、史跡天然記念物屋島・史跡高松城跡地久横台発掘調査概報、高松市内遺跡発掘調査概報、船屋町遺跡・日暮・松林遺跡(済生会)

丸亀市教育委員会

中ノ池遺跡・第8次調査、中ノ池遺跡Ⅱ、平成13年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書、平成14年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

三木町教育委員会

西土居遺跡群

香川町教育委員会

龍満山古墳群-1号墳-

綾歌町教育委員会

岩崎山第4号古墳・快天山古墳発掘調査報告書

香川県歴史博物館

香川県歴史博物館ニュースvol.16～vol.18

高松市歴史資料館	メモリー「映画・映像の文化」、高松市歴史資料館年報 No.8・9、彦根藩主井伊家の名宝
(財) 愛媛県埋蔵文化財調査センター	湯榮城だより3号・4号、紀要愛比売第3号、常定寺遺跡・音地遺跡・伊崎越遺跡、水地遺跡、道後今市遺跡13次、中尾山遺跡1次・2次、久米塚田IV遺跡2次、山越遺跡4次
(財) 松山市生涯学習振興財団	松山市埋蔵文化財調査年報14、中村松田遺跡、大峰ヶ台遺跡II・9次調査・、船ヶ谷遺跡・4次調査、福音小学校校内遺跡II、船ヶ谷遺跡4次調査II、福音小学校校内遺跡III
今治市教育委員会	市内遺跡試掘確認調査報告書XV、市内遺跡試掘確認調査報告書XVI、高橋岡ノ堀遺跡
松山市考古館	波来人の足跡・松山平野に移り住んだ波来人の姿を探る。
愛媛大学考古学研究室	原始・古代の鉄製品の腐食と土中環境の対応性に関する研究、しまなみ海道沿線における歴史・文化体験ゾーンの創造、フィールドに文化を創る
愛媛大学埋蔵文化財調査室	樽味遺跡IV、愛媛大学埋蔵文化財調査室年報・1999・2000年度 -
(財) 高知県文化財团	高知県埋蔵文化財センター年報12、岡豊城跡III、高知城伝下屋敷跡、林田遺跡II、勇前遺跡、居徳遺跡群IV、東江曲遺跡、西分増井遺跡I、久木ノ城跡・遺跡、古津賀遺跡・神ヶ谷2号窯跡、具同中山遺跡群II・2
高知県教育委員会	埋文こうち第16号
南国市教育委員会	泉ヶ内遺跡・上佐国御跡発掘調査報告書第12集
奈半利町教育委員会	コグロク遺跡群
高知県立歴史民俗資料館	岡春鳳日第48号～第51号、高知県立歴史民俗資料館年報 No.12
(財) 福岡市埋蔵文化財センター	福岡市埋蔵文化財センター年報第21号
久留米市埋蔵文化財センター	いま、弥生の風が吹く、まいぶん久留米第2号、久留米城下町遺跡、京隈侍屋敷遺跡・久留米城外郭遺跡、正福寺遺跡・第4～6次調査・、久留米市埋蔵文化財調査集録V・碇遺跡・金丸遺跡III・筑後國三瀬郡衙跡・筑後國府跡・平成14年度久留米市内遺跡群
(財) 北九州市芸術文化振興財団	紀要-第17号・埋蔵文化財調査室年報19、上貝(C)遺跡5、長野尾登遺跡第3地点2、横代堂ノ前遺跡・上清水遺跡VI区、片野遺跡(第3次調査)・金丸遺跡4、小倉城代末御藏跡III・志井雀木遺跡・横代軒遺跡・朽網南塚遺跡1(第1地点)・加治屋敷遺跡1・朽網南塚遺跡2・堅町遺跡第2地点・洗子窑跡・重留遺跡第7地点・長野フンデ遺跡3・横代堂ノ前遺跡1区・重留遺跡第4地点・三郎丸遺跡・寺町遺跡2
福岡県教育委員会	福岡県埋蔵文化財発掘調査年報・平成13年度・、普提遺跡I・忠隈宮坂遺跡・鶴三緒七浦遺跡・大的遺跡I・日詔遺跡I・西新町遺跡V・内ヶ磯空跡3
福岡市教育委員会	福岡市埋蔵文化財年報 vol.16、青木3、有田・小田郷第38集・井尻B遺跡11、今宿五郎江遺跡IV・今宿遺跡2・梅林遺跡4、大橋E遺跡5、大原D遺跡群4、上月隈B遺跡・九州大学統合移転用地内文化財発掘調査概報2、元岡・桑原遺跡群2・源脇館跡13・雀居7・雀居8・雀居9・重留村下遺跡2・下月隈C遺跡3・福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告-17・笠拔遺跡・寺島遺跡・野多目A遺跡7・下月隈鳥越遺跡・水町古墳・那珂33・博多86・博多88・博多89・博多90・博多91・博多92・博多93・博多94・博多95・箱崎14・箱崎15・羽根戸古墳群5・比恵31・比恵32・福岡城跡大手門・第48次調査報告・、三苦4・发野A遺跡8・吉武遺跡群XV・諸岡B遺跡20次・席田青木遺跡5・吉原8・立花寺5・飯氏二塚古墳2
筑紫野市教育委員会	太宰府条坊跡・大牟田西遺跡・原田第1・2・40・41号墓地 上巻
春日市教育委員会	春日市埋蔵文化財年報10・伯支社遺跡
前原市教育委員会	多久川流域の遺跡群・笠塚古墳・三雲・井原遺跡III・井原1号墳・前原西町遺跡II・

頭田町教育委員会	高祖城 烏尾遺跡、城腰遺跡Ⅱ
九州歴史資料館	九歴大より No.16～No.19、九州歴史資料館年報-平成14年度-、九州歴史資料館研究集28
福岡大学考古学研究室	国史跡矢立山古墳群、佐賀県・東十郎古墳群の研究・対馬・サイノヤマ古墳の研究
佐賀県	
佐賀県教育委員会	中原遺跡、古野ヶ原銅鐸、梅白遺跡、吉野ヶ里遺跡
佐賀市教育委員会	牛田Ⅰ遺跡、土石井遺跡、上九郎遺跡、堺部丸五本柳遺跡、園田遺跡、佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書-2000年度-
唐津市教育委員会	唐津市内遺跡確認調査(19)、鶴ノ尾遺跡(1)、鶴ノ尾遺跡(2)、徳蔵谷遺跡(4)、牛引地遺跡
鎮西町教育委員会	平野町遺跡(第Ⅱ区)
神埼町教育委員会	西田遺跡、船塚遺跡、荒目遺跡Ⅱ区、唐香原遺跡Ⅱ区、馬都遺跡Ⅲ区、利田柳遺跡、城原・一本松遺跡Ⅱ区、馬都遺跡、猿巣古墳群、花浦古墳群、八子三本黒木遺跡Ⅱ区、八子三本黒木遺跡Ⅰ区、尾崎土生遺跡16区、尾崎土生遺跡、唐香原遺跡Ⅲ区、小源遺跡13区
佐賀県立博物館	調査研究書[第27集]、年報No.32、佐賀県立博物館・美術館報No.129・No.130
長崎県	
鷹島町埋蔵文化財センター	鷹島海底遺跡Ⅵ、鷹島海底遺跡Ⅷ
熊本県	
人吉市教育委員会	鍋の口遺跡、史跡人吉城跡Ⅳ
宇土市教育委員会	境目遺跡、宇土城跡(西岡台) V、宇土城跡(西岡台) VI
大分県	
佐伯市教育委員会	佐伯城下町遺跡
大分市教育委員会	玉沢地区条里跡第2次発掘調査報告書、大分市の文化財、大分市埋蔵文化財調査年報vol.12、府内城・城下町遺跡・第13次発掘調査概報、上野大友館(上原館)跡、長迫遺跡、大友館跡・発掘調査概報Ⅰ・大友館跡・発掘調査概報Ⅱ、城原・里遺跡・第5次調査の概要、城南遺跡、大分市内遺跡確認調査概報-2001年度-、下郡遺跡群、大友府内4、南蛮都市・豈後府内、大分市埋蔵文化財調査年報vol.10、龜塚古墳整備事業報告書、園遺跡、園指定史跡龜塚四分寺跡、府内城・城下町遺跡
三光村教育委員会	三光村の遺跡
天瀬町教育委員会	高瀬丘遺跡・亀石山遺跡
大分県立歴史博物館	おおいた歴博 No.13～No.15
宮崎県	
宮崎県教育委員会	西都原171号墳第2分冊、西都原171号墳、西都原古墳群
高岡町教育委員会	永追第2遺跡、押田遺跡、梅木田遺跡、高岡町内遺跡Ⅶ、小田元第2遺跡
鹿児島県	
鹿児島県立埋蔵文化財センター	埋文大より第31号～第34号
垂水市教育委員会	横道遺跡、宮ノ前遺跡・重田遺跡
出水市教育委員会	六反ヶ丸遺跡
その他	
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	公立埋文協会報第31号・第32号
全国埋蔵文化財法人連絡協議会	全国埋文協会報 No.64・No.65
文化環境研究所	カルチベイト No.20・No.21、文環研レポート第21号
(株)講談社	再現日本史
(株)国際航業	文化遺産の世界9号～12号
(株)四門	小野田遺跡発掘調査報告書、子安台遺跡
(株)京都科学	ミュージアムワークス vol.13・vol.14

平成 16 (2004) 年度

I 組織

埋蔵文化財センターは、文化財保護課の一施設として、市域内の埋蔵文化財に係る業務を一括して担当している。平成16年度における埋蔵文化財センターの組織及び人員は下記のとおりとなってい る。



文化財保護課	課長	大本 森
埋蔵文化財センター	館長	福木 明
タ	主任	鍵谷 守秀 (科学センター主任兼務)
タ	学芸員	小野 雅明
タ	臨時職員	田中 玲子
タ	タ	菅沼 みどり
タ	タ	清水 紀子

(職名等は平成17年3月31日現在)

II 事業の概要

1. 調査事業

- (1) 事前協議 Fax等による埋蔵文化財包蔵地照会は、前年度のほぼ2倍にあたる193件あり、開発指導要綱に基づく事前協議の件数は、前年度比8件増の103件であった。これらのほとんどは宅地取引あるいは宅地造成に関する協議であり、不景気と見られるなか、住宅建設に関しては依然として活発であることを示している。
- (2) 発掘調査 平成16年度は本発掘調査2件、確認調査2件、立会調査11件を実施した。本発掘調査を行った遺跡は、国・県の補助を受けて平成15年度から2カ年計画で実施した日畠廃寺と、御大師堂建設に伴って実施した朝原寺跡である。朝原寺跡からは、岡山県内では初めてであり、また全国的にみても最も古いタイプに属する達磨窯が発見された。立会調査は前年に比べ5件減り、そのほとんどは公共事業に伴うものであった。
- (3) 分布調査 补足調査を含め、今年度で倉敷地区と庄地区の分布調査を終了し、遺跡台帳の整理後これらの成果をまとめた「倉敷市遺跡地図(倉敷・庄地区)」を刊行した。
- (4) 整理作業 今年度実施した日畠廃寺発掘調査及び朝原寺跡発掘調査で出土した遺物を中心として、洗浄・註記・復元・実測等の作業を行った。また、これまでの調査で出土した未整理遺物の一部についても、同様の作業を行った。

2. 教育普及事業

(1) 主催講座等 春の遺跡見学会など、計7回の講座等を実施。延べ参加人数2,402人。

講座名	実施日	講座内容	参加人数
春の遺跡見学会⑨	5/9(日)	備中西部の遺跡めぐり	30人
夏休み親子考古学教室	7/23(金)	火おこしと土器によるご飯炊き	9人
ライフパークの集い	8/15(日)	ドキドキ発掘体験	2240人
考古学体験講座	10/31(日)	滑石で耳飾りをつくる	22人
秋の考古学講座 「よみがえる吉備の古代山城」	11/21(日)	鬼ノ城の発掘調査と復元整備	39人
ク	11/28(日)	鬼ノ城の現地見学	33人
ク	12/5(日)	古代山城への誘い	29人

(2) 出前講座等講師派遣 古代の土笛づくり等、計8回の派遣。延べ参加人数218人。

派遣内容	開催日	依頼団体	参加人数
古代の土笛づくり	5/30(日)	倉敷不登校ネットワーク	10人
古代の土笛づくり	6/19(土)	西富井子ども会	28人
古代の土笛づくり	7/29(木)	倉敷東公民館	23人
古代の土笛づくり	8/5(木)	水島図書館	25人
古代の土笛づくり	8/18(水)	共睦南子ども会	34人
夏休みふれあい体験講座 「親子ミステリー歴史探訪」	8/21(土)	水島公民館	19人
考古学研究会岡山例会 「日畠廃寺の発掘調査」	10/9(土)	考古学研究会	50人
歴史研修講座 「王墓の丘史跡公園見学」	10/26(火)	清音村教育委員会	29人

(3) 報告書等の刊行

倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第11集「日畠廃寺」

A4判 本文72頁 図版22頁 500部 平成17年3月刊行

倉敷市遺跡地図(倉敷・庄地区)

A2判 本文28頁 100部 平成17年3月刊行

(4) 資料の貸出

貸出期間	資料名	貸出先	使用目的
1 4月27日～5月28日	王子ヶ岳南麓遺跡 カラースライド6点	(財) 水島地域環境 再生事業団	海底ゴミ調査事業活動報 告書作成
2 11月26日～12月1日	石器・縄文土器等20点	倉敷市立上成小学校	総合学習授業の資料として利用

3. 利用者数

展示・講座等を含めた平成16年度の利用者数は下表のとおりである。総利用者数は10,451人で、昨年度と比較して4.7%の減となった。これは、今年度出前講座の実施回数が少なく、そのことが講座等の人数に直接反映されたのが原因である。

〈平成16年度月別利用者数〉

月	大人	子ども	講座等	計	開館日数	1日平均利用者数
4	301	301		602	25	24
5	356	358	40	754	24	31
6	303	125	118	546	26	21
7	389	389	33	811	26	31
8	1,604	1,837	73	3541	26	136
9	419	323		742	24	31
10	304	398	182	884	26	34
11	370	204	71	645	23	28
12	221	174	29	424	22	19
1	212	180		392	22	18
2	241	268		509	23	22
3	356	272		633	26	24
合計	5,076人	4,829人	546人	10,451人	293日	35.7人

III 教育普及事業報告

1. 春の遺跡見学会⑨

～備中西部の遺跡めぐり～

日 時 平成16年5月9日（日）
講 師 横原好二（倉敷埋蔵文化財センター）
対 象 一般
参加者 30人

出発時には雨が少し降っていたものの、幸いにも現地に着いた時点で雨はやんでいた。今回は県西部の笠岡市周辺の遺跡を訪れた。笠岡市立郷土館では、津雲貝塚や閻戸廐寺出土の遺物を見学した。中でも津雲貝塚出土の縄文人骨は抜歯が行われており、怖い物見たさ半分に关心を集めていた。長福寺裏山古墳群では、古墳時代中期後半の古墳系列が整備されており、古墳の形状などがよくわかったと好評であった。参加者の多くは、岡山県内でも西の端にあたる笠岡市に多くの遺跡が残されていることを知って驚いていた。



2. 夏休み親子考古学教室

～火おこしと土器によるご飯炊き～

日 時 平成16年7月23日(金)

会 場 倉敷市少年自然の家

対 象 小学校高学年と保護者

参加者 9人



昨年、一昨年と比較的多くの参加者があったこの講座であるが、今年はキャンセルが出たこともあって、最終的には3組のみの参加となった。組数が少なく、指導が十分行き届いたためか、どの組もあまり苦労することなくマイギリで火をおこすことができ、ご飯やみそ汁も順調に仕上げることができた。また、古代について子どもたちといろいろな話をしたり、質問に答えたりする時間もでき、参加者には結果的に充実した講座となった。

3. ライフパークの集い

～ドキドキ発掘体験～

日 時 平成16年8月15日(日)

会 場 倉敷文化財センター「遺物整理室」

対 象 一般

参加者 2,240人



夏休みの一大イベントである「ライフパークの集い」で、当センターが毎年行っているのが「ドキドキ発掘体験」である。これは、大きな砂箱にミニチュアの土器や埴輪を埋め、それらを竹べらで振り出してもらうコーナーである。宝探し感覚で理屈抜きで楽しめるので、子どもたちの人気は高く、毎年リピーターも多い。昨年から、滑石で作ったアクセサリーを抽選でプレゼントするようになったものもある。今年もこのコーナーは大盛況で、一時は順番待ちの長い列ができるほどであった。

4. 考古学体験講座

～滑石で耳飾りをつくる～

日 時 平成16年10月31日(日)

講 師 錦谷守秀・田中玲子(倉敷埋蔵文化財センター)

対 象 小学生と保護者

参加者 22人



小学生の親子を対象として、滑石(ろう石)で縄文時代の耳飾りを作る講座。石を丸く削る作業と表面を磨ぐ作業が主な作業となるが、どちらも地道で根気がいるため、低学年の子どもには少し難しいようだった。子どもを主な対象として企画した講座であるが、親子でそれぞれ作ってもらったため、むしろ親の方が本気で取り組み、なかには子どもの補助を忘れるほど熱中する保護者も少なくなかった。

5. 秋の考古学講座

～よみがえる吉備の古代山城～

日 時 平成16年11月21・28・12月5日(日)

講 師 第1回 村上幸雄(総社市)

「鬼ノ城の発掘調査と復元整備」

第2回 村上幸雄(総社市)

「鬼ノ城の現地見学」

第3回 出宮徳尚(岡山市教育委員会)

「古代山城への誘い」

会 場 ライフパーク倉敷「視聴覚ホール」

対 象 一般

参加者 101人(延べ人数)

今回の秋の考古学講座のテーマは、吉備の古代山城。鬼ノ城の発掘調査を担当している村上幸雄氏と大廻小廻の調査を手がけ、古代山城の研究を続けている出宮徳尚氏を講師にお招きして開催した。

第1回は村上幸雄氏により、「鬼ノ城の発掘調査と復元整備」と題する話をお聞きした。はじめに、鬼ノ城発見から1978年の学術調査を経て国の史跡に指定されるまでの経過が説明され、研究者のみならず一般の方々にも遺跡の重要度が認識されていく様子がよくわかった。そして、1994年から史跡整備に向けて行われた発掘調査の話題に移り、全国的にも発見例のない古代山城の造構について解説された。

第2回は前回に引き続き村上幸雄氏の説明により鬼ノ城の現地見学を行った。最初の見学ポイントとなつた展望台から復元西門をのぞみ、さらに、眼下の総社平野と低丘陵を眺めながら鬼ノ城の立地についての説明をお聞きした。復元工事中の角楼や西門、版築工法で復元された城壁などの造構を間近で見て、受講者の方々は古代山城の壮大さに驚嘆した様子であった。

第3回は出宮徳尚氏の講演で、「古代山城への誘い」と題し、西日本に築かれた古代山城が持ち得る軍事的機能や歴史的評価についての話をお聞きした。古代山城の築造を白村江の敗戦後の防衛策として捉える見方がある一方、天智政権下では倭(日本)が唐帝国の傘下に組み込まれ、両国の軍事展開の中で古代山城を捉えることも可能ではないかという意見が紹介された。



N 調査事業報告

平成 16 年度調査一覧表

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区別	調査期間	調査結果
1	浜遺跡	玉島八島	宅地造成工事	立会	04.04.16	遺物・遺構なし
2	日畠廃寺	日畠	遺跡整備	確認	04.04.22 ~ 04.07.10	建物跡・瓦溜まり 中世土器
3	砂原南遺跡	上東	農道改良工事	立会	04.06.02	遺物・遺構なし
4	中津貝塚	玉島黒崎	道路補修工事	タ	04.07.28	タ
5	朝原寺跡	浅原	御大師堂建設工事	本調査	04.08.20 ~ 04.10.23	達磨窯・瓦溜まり
6	祇園下台場跡	下津井	個人住宅造成工事	確認	04.08.27 ~ 04.08.31	土壘の版築
7	上東遺跡	上東	宅地造成工事	タ	04.11.16	弥生土器片
8	帆崎遺跡	玉島黒崎	上水道工事	立会	04.12.01	遺物・遺構なし
9	金浜遺跡	児島塩生	道路補修工事	タ	04.12.01	タ
10	上東遺跡	上東	水路改修工事	タ	04.12.07	タ
11	広江・浜遺跡	広江	小学校排水管工事	タ	04.12.11 ~ 05.02.15	弥生土器・須恵器
12	上東遺跡	上東	宅地造成工事	タ	05.01.06	遺物・遺構なし
13	一等寺下遺跡	曾原	道路改良工事	タ	05.01.12	タ
14	正保堤	玉島勇崎	下水道工事	タ	05.01.12	タ
15	下津井城跡	下津井	擬木橋改修工事	タ	05.02.15	タ
16	西山1号墳	日畠	個人住宅建設	測量	05.03.01 ~ 05.03.10	横穴式石室実測
17	才楽遺跡	日畠	農道改良工事	立会	05.03.03	遺物・遺構なし
18	岩倉遺跡	日畠	農道改良工事	タ	05.03.18	タ



調査地点位置図 (S=1/100,000)

ひばた 日畠廃寺確認調査概要 (一覧表 No.2)

調査位置 日畠字赤井524番1外

調査原因 遺跡整備

調査面積 247 m²

調査期間 04.04.22～04.07.10

調査担当 福本・小野

遺跡の概要 日畠廃寺は白鳳時代（7世紀後半）に創建された市内最古の寺院跡で、昭和46（1971）年に倉敷市の史跡に指定された。日畠廃寺については、『吉備郡誌』や『吉備古瓦図譜 第二輯』などにその記述が見られる。昭和11（1936）年に建物跡の発掘調査が試みられ、講堂跡と考えられる四面に庇が付く7間×4間の礎石建物が確認された。しかし、その後は本格的な調査は行われておらず、伽藍配置や寺域等の詳しいことについては明らかになっていない。こうしたなか、近年日畠廃寺周辺において宅地造成等の開発が目立つようになり、その一部は寺域内の可能性もあるなど、遺跡を保護していくうえでは憂慮すべき状況となっている。そこで、こうした開発から日畠廃寺を適切に保護していくとともに、今後の活用を図るための基礎資料を得ることを目的として、平成15・16年度の2カ年計画で確認調査を実施した。なお、本確認調査の詳細については、倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第11集『日畠廃寺』として、平成17年3月に既に刊行済みである。

(1) 建物跡 I の調査

講堂跡と考えられる7間×4間の礎石建物の西辺中央部にトレント2を設定した。厚さ約90cmに及ぶ堆積層・造成層を除去すると、基壇と礎石1、基壇西辺を画する雨落溝が検出された。また基壇上には、瓦溜りが検出された。これらの概要是以下のとおりである。

（基壇と礎石・雨落溝） 建物跡 I の基壇は、東に開く谷間の緩斜面を切り下げて平坦面を削り出し成形したものであることが確認された。検出された礎石は不動のものと考えられ、建物西辺の側柱にあたる。花崗岩製で、柱座等の造り出しあはないが、表面を滑らかに加工してある。礎石の中心から基壇の端（雨落溝の東肩）までは約80cmと接近しており、平成15年度の調査でも同じような状況が確認された。基壇西辺の雨落溝は、幅約2m、基壇上面から底までの高低差は35cm程度である。この位置に雨落溝がめぐることが明らかになり、昨年度調査のトレント1において基壇の南西角で検出された中世の溝は、西辺雨落溝を踏襲していると考えることができる。

（瓦溜り） 瓦溜りの上層では細片となった瓦がほとんどであるが、基壇



日畠廃寺位置図 (S=1/10,000)



トレンチ配置図 ($S=1/1,000$)

直上に近い下層では比較的保存状態のよい瓦が残っている。調査では瓦滲り下層を検出した時点で掘り下げを中止し、表面の観察と記録を行った。なお、上層には中世の土器が含まれており、瓦の堆積層の直上で中世の活動が営まれていたと思われる。

トレンチ1の調査で、建物跡Iの南西隣接地において別の基壇の存在を思わせるような地形の高まりが認められた。そのため、このあたりの状況を確認するためにトレンチ13を設定したが、遺構は認められなかった。結局、トレンチ1の南西縁で検出された地形の高まりは、建物Iの基壇を切土成形する段階に生じた残丘部分と判断された。

(2) 建物跡IIの調査

トレンチ21で建物IIの基壇北辺の一部をとらえることができた。版築層からなる基壇の裾が確認され、建物IIの基壇が南北15~16m程度の規模と推定する根拠が得られた。また、建物IIの基壇を構築するに際し、広い範囲で整地が行われていることが確認された。土層観察によると、谷間に堆積した黒色砂質層の上に厚さ10数cmの整地層が



トレンチ2

みられ、基壇はその上に築かれている。

(3) 寺域北西部の調査

寺域を画する施設の存在をうかがわせる溝（北側溝）がトレンチ15・20で検出された。幅1.6～2.0m、検出面からの深さは80cmである。溝の方向は、トレンチ15においてほぼ東西方向で、建物跡Iの東西中軸線から40m北に位置する。トレンチ20においては、大きくカーブを描いて南に曲がるようであるが、トレンチ14には延びていない。他にトレンチ15で古代から中世の溝数条が検出された。

(4) 寺域東部の調査

トレンチ16・17で柱穴が検出され、掘立柱列の存在が明らかとなった。柱間約3.0mを測り、建物跡を構成する可能性もある。また、トレンチ17・22で南北方向に延びる細い溝状遺構が検出された。柱列と溝との関係は不明であるが、寺域北東部の一角に何らかの施設が存在することが明らかとなった。

トレンチ18から土壙1基が検出された。上面は削平を受けているが、柱穴の可能性がある。トレンチ19では柱穴が4基確認された。柱穴の一つは柱根が残り、検出面からの深さは最大で70cm。他の3基は浅いが、これらが有機的な関係を有し、なんらかの遺構の一部である可能性はある。その他中世の井戸状遺構1基が検出された。

(5) 出土遺物

瓦類以外には、トレンチ2の瓦溜りから鉄釘数本、雨落溝下層堆積から土師器・須恵器小片とともに綠釉手付瓶が出土した。トレンチ15・20の北側溝から土師器（壺・杯・皿など）、須恵器（長頸壺）などの9～11世紀頃の土器類が出土した。

（小野）



トレンチ21



トレンチ15



トレンチ16



トレンチ19

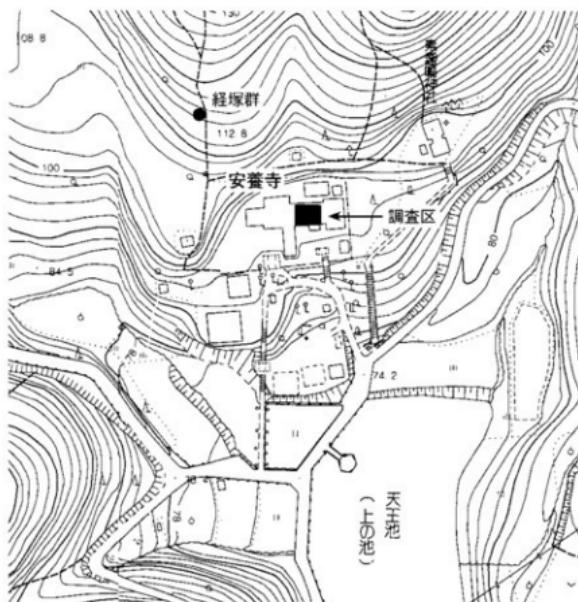
朝原寺跡発掘調査概要 (一覧表 No.5)

調査位置	浅原1573番地	調査面積	156 m ²
調査原因	御大師堂建設工事	調査担当	福本・鍵谷
調査期間	04.08.20～04.10.23		

遺跡の概要 朝原寺跡は、倉敷市街地から北へ約4km、福山の南斜面中腹に所在する平安時代後期から中世にかけての山岳寺院跡である。朝原寺跡については、従前より昭和50年刊行の「倉敷市文化財分布図」に基づき「浅原寺跡」の名称を使用してきたが、平成17年3月の「倉敷市遺跡地図(倉敷・庄地区)」の改訂を機に「朝原寺跡」の名称を使用することとした。

現在、朝原寺跡に建てられている安養寺は、もとは朝原寺の中の有力な寺院のひとつであったと考えられており、現在も平安時代後期作の兜跋毘沙門天や吉祥天などの国指定重要文化財の仏像をはじめ、40体におよぶ毘沙門天像が所蔵されている。これまでに安養寺境内周辺で実施された発掘調査においては、平安期から中世にかけての大量の瓦片とともに、大型の礎石建物の一部や掘立柱建物群、境内の拡張に伴う造成の痕跡などが確認されている。また、安養寺の裏山では昭和33年に3基からなる経塚の調査が行われ、法華経が刻まれた瓦経などとともに「応徳三年春二月於安養寺」と刻まれた瓦経題文も出土している。

調査の概要 調査は、安養寺の客殿を撤去した後に、新たに建立される御大師堂の建築工事に伴い実施したもので、調査地は安養寺の伽藍が建てられている平坦面のほぼ中央にあたる。当該地東隣で昭和55年に実施した安養寺会館の建設に伴う発掘調査では、大型の礎石建物の一部や大きな瓦溜りなどが検出されている。このため今回の調査区ではそれらの遺構の続きが検出されるものと期待されたが、建物跡等は検出されておらず、むしろ伽藍の間の空地のような状況を呈しており、南北2カ所の瓦溜りと平瓦で覆われた暗渠状の溝、及び達磨窯等が検出された。また、調査区北東から南西にかけては、裏山から続く小さな谷が入っており、具



調査区配置図 (S=1/2,500)

体的な時期ははっきりしないが、比較的古い時期に寺域内の平坦面を拡張するために谷を埋めた状況も確認された。

これらのうち瓦溜りは、調査区の中央から南西にかけて、谷状に窪んだ中に南北2カ所に分かれて確認されている。北側の瓦溜りは 6.5×6 m、南側の瓦溜りは 3×4 mの範囲に多量の瓦片が堆積した状況がみられた。瓦溜りの中には平安時代後期に属すると思われる軒先瓦がみられるものの、三巴文軒丸瓦や連珠文軒平瓦も比較的多く含まれていることから中世以降に廃棄されたものと思われる。また瓦溜りの中には、瓦に混じって土師質の椀や小皿、磁器、鉄釘、鉄滓等も出土している。

暗渠状遺構は、調査区西寄りで、調査区北辺から長さ 8.5 mにわたってほぼ南北方向に検出されている。上部の幅 30 cm、深さ 15 cmほどの断面U字形の溝の上に平瓦を伏せたもので、暗渠状の溝と思われる。溝の上に置かれている瓦は、縄目叩きの施されたものが多くみられるほか、平安時代後期の軒平瓦や部分的に丸瓦も使用されており、平安時代後期以降の比較的古い時期のものと思われる。

達磨窯は、調査区南東部で検出されている。残存しているのは窯の底部のみであるが、東西2方向に焚口がみられ、全長約 3.2 m、現存幅は約 1.5 mの小型のものである。燃焼室は、それぞれ平面三角形を呈し、奥行き約 90 cm、奥幅約 1.5 m、焚口幅は約 30 cmを測り、両方の焚口には、燃焼室からかきだした炭灰の層が残されている。焼成室は床面が削平を受けているが、東側部分では4本のロストルの痕跡が認められる。達磨窯は、室町時代後期から桃山時代にかけての時期に使用が始まったとされ、江戸時代から明治にかけて最も盛んにつくられた瓦専用の窯で、現在でも群馬県などでわずかに稼動しているものがあるという。今回発見された達磨窯では、窯内にはほとんど瓦片が残されていなかったが、焼成室の大きさや床面の傾斜などの特徴から古式に属すると思われる。なお、当該達磨窯については、安養寺のご協力により調査終了後、遺構の切り取り移設工事をを行い、御大師堂の地下に展示保存される計画となっている。

(福本)



調査区全景



達磨窯検出状況



現地説明会

祇園下台場跡確認調査報告 (一覧表 No.6)

調査位置 下津井一丁目 387番1外
調査原因 個人住宅造成工事 調査面積 40m²
調査期間 04.08.27 ~ 04.08.31 調査担当 小野・藤原

遺跡の概要 下津井漁港西側の石垣に囲まれた海拔5~6mの高台が祇園下台場跡である。江戸時代末期、歐米諸国から開国を迫られ、対外的緊張に直面した江戸幕府は、沿岸各地に防備体制の整備を命じた。下津井周辺においては、文久三年(1863)頃、岡山藩が田之浦御台場、祇園下御台場、西之脇御台場の3カ所の御台場と10カ所の伏台場を設け、沿岸防衛に備えた。祇園下御台場は、当時岬状の海岸であった祇園神社山裾を埋め



台場跡近景

立てた場所に築かれた砲台場である。池田家文庫の絵図「下津井港祇園下御台場略図」(以下「御台場略図」と記す)によると、外周海側に防護壁である「土居敷」をめぐらし、そのすぐ内側が「幅二間、高さ二尺の壘台」すなわち砲座となる。土居敷の4カ所に砲眼が切り込まれ、この位置に白砲1挺ずつ、そして、砲眼間にやや広い2カ所にヘキサンス砲1挺ずつの計6挺を配備する。弾薬庫、番所、雪隠などの施設は、後方の祇園神社石段近くの表御門から入ってすぐの通路脇に位置し、北側背後の波止場には御船具庫、荷揚げ場がある。現況でも、台場周囲は山側を除いて高い石垣で囲まれており、その石垣は、部分的な修復を受けながらも当時の外形は保たれていると思われる。しかし、上部構

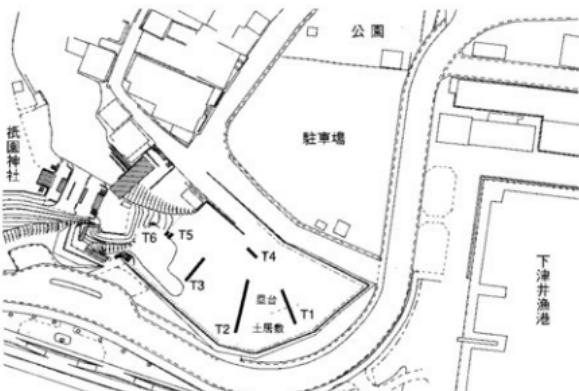


遺跡位置図 (S=1/20,000)

については、料亭金波楼（その後の下津井寮）の建物などにより大きく破壊を受けていると想像され、表面観察では台場施設の痕跡は認められない。現在、上面は更地になっているが、外周付近には庭の植栽、コンクリート製の集水枠、池などが残る。

・調査の概要 調査は、幅約1mのトレーニングを6カ所に配置し、断面観察により遺構の残存状況を確認することを主な目的として行った。

トレーニング1 南北の長さ約11mのトレーニングの南半分において、地表下20~30cmの深さで版築状の盛土（まとめて9層と呼ぶ）が検出された。この層は、厚さ5~10cm単位の積み重なりからなる花崗岩バイラン土を主体とした土層で、よくたたきしめられている。全体的には水平に積まれているが、トレーニング南端部分では南に少し傾斜しており、そのまま石垣の裏込め土層へと続くように思われた。しかし、その先はコンクリート製の構造物によって破壊されているために詳しい状況はつかめなかつた。9層の盛土は外周の防護壁にふさわしい堅固なつくりと思われ、「御台場略図」との位置関係から土居敷の一部と考えられるが、土星の形をとどめないほど上部は削平されている。8層は9層ほど層の単位が明瞭ではないが、同様に版築状につき固めた盛土と思われる。6・7層は混じりけのない均質な土層である。台場の廃止後の整地層あるいは二次堆積層の可能性も否定できないが、トレーニング4で検出された4層の盛土に似ることから、これも遺構に伴う盛土と考えたい。トレーニング1の断面を南から北に見ていくと、構築順序が次のように想像される。まず、周囲に石垣を築きながら埋め立てを進め、所定の高さまで積み上げると版築により、まわりを上手状に高く盛って土居敷を築く。埋め立て工程の中で、常に外周部分は中心部分よりも高く、念入りに仕上げられたと思われ、土居敷の構築は石垣の裏込め作業の延長上にあったのかもしれない。そして、そのすぐ内側では、やや簡略化され



トレーニング図 (S=1/1,500)



1. 黒褐色土 (表土)	4. 黄灰色土	7. 灰色砂質土 (盛土)
2. 黒褐色土	5. 黑褐色土	8. 黄灰色土 (盛土)
3. 黄灰色土	6. 黄灰色土 (盛土)	9. 黑褐色土と黒褐色土 (版築)
		10. 灰色土 (盛土)

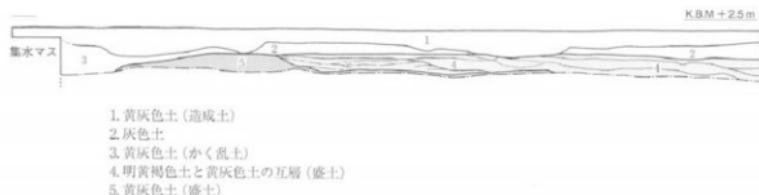
トレーニング1 西壁断面図 (S=1/100)

たやり方で盛土を行い、中心に近い部分では土を一気に入れて整地しただけの粗雑な方法で盛土が行われたと思われる。このように盛土のやり方が台場外側から内側へと変化する様子はトレンチ2でも観察された。トレンチの中央、9層と8層が重なり合う部分が土居敷と堤台の境にあたると考えられるが、土居敷のみならず、堤台の上部までも削平されている可能性があるため断定はできない。

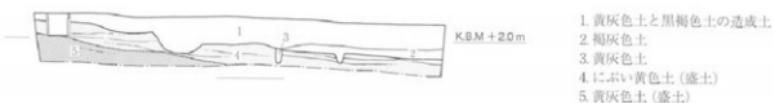
トレンチ2 地表下約50cmの高さで台場遺構に伴う盛土層が確認された。4層は粗雑ながら版塗状の盛土層である。盛土の積み上げ数をみると、内側にいくにしたがって積み上げの単位が減少し、一度に多くの土が盛られているようである。5層は均質な黄灰色土からなるよくしまった土層で、土居敷の下部を構成する盛土層と考えられる。位置的にはトレンチ1の10層に対応できる。トレンチ1の9層の盛土に対応する部分は、大型の集水マスの掘り方により破壊・搅乱され、良好な状態では残っていない。



トレンチ1 南壁



トレンチ2 西壁断面図 ($S=1/100$)



トレンチ3 西壁断面図 ($S=1/100$)



トレンチ4 南壁断面図 ($S=1/100$)

トレンチ3 トレンチ2と同様の残存状況であり、遺構に伴う盛土層を確認するにとどまった。5層上面は西から東に傾斜し、4層の盛土も同じような傾斜で積み重ねられている。

トレンチ4 地表下約60cmの高さで遺構に伴う盛土層が確認された。3層と5層は花崗岩バイラン土をたきしめた層。4層は均質な黄灰色土層。6層は灰白色砂層で、貝殻細片を含む海砂である。この付近は、「二間半の土塀」が記されているが、削平されたためか当トレンチでは確認できない。

トレンチ5・6 調査区域の北西端、祇園神社山裾に露出した岩盤に取り付くようにして高さ約1.5mの石垣が築かれている。この石垣が台場の遺構と関連があるかどうか確認するために小規模なトレンチ5・6を設定した。その結果、この石垣は台場遺構に伴う盛土の直上からではなく、その上の旧表土上に築かれたことが確認され、後世の石垣と判断された。

今回実施した確認調査では、以下の成果が得られた。

(1) 遺構の存在状況について

祇園下台場跡は、遺跡中心部に建設された金波楼（下津井窯）の建物等によって上部構造が大きく破壊されていることが確認された。敷地外周にかつての庭園の植え込みが残存するために、土居敷が想定される部分について十分な調査は行えなかつたが、このあたりに集水マス・池などの構造物が散見されることからも土塁遺構の保存状態はよくないと思われる。また、平成8（1996）年に建物が焼失した後に建物基礎などが取り除かれ、広い範囲で整地が行われているようである。そのため、土居敷よりも一段低い畝台やさらに低い内側部分も削平されているらしく、今回の調査で明確に把握することができなかつた。

(2) 遺構の構造について

トレンチ1で、外周防護壁である上居敷の一部分を検出した。花崗岩バイラン土を主体に積み重ねた版築によるもので、昭和55年・59年に岡山県教育委員会が調査した山之浦御台場跡の胸墻土塁と同様の工法と思われる。また、盛土の方法について、部分的に精粗の差があることが確認された。トレンチ1・2では、外側から内側にいくにつれて積み上げ層の単位数が減少しており、周囲の石垣を含む土居敷部分を堅固に、その内側部分は簡略にという意識で構築されたのであろう。そして、台場中心部分の盛土の下層では、花崗岩バイラン土や海砂などが一度に積まれていることから、急速に海岸の埋立てが行われ、台場が築かれていたようすがうかがえる。なお、台場遺構に伴う遺物は出土していない。

（小野）

〈参考文献〉

- 高本恭夫「設問回答下津井砲台場の研究」1960
- 下澤公明「田之浦御台場跡の調査」「岡山県叢書文化財発掘調査報告71」1988
- 大谷壽文「下津井台場と凌波隊」「高梁川」第56号 1998
- 西ヶ谷恭弘編「国別城郭・陣屋・要害・台場事典」2002

じょうとう
上東遺跡確認調査報告 (一覧表 No.7)

調査位置 上東字幸山162番2外

調査原因 宅地造成工事

調査面積 8m²

調査期間 04.11.16

調査担当 鍵谷・小野

遺跡の概要 上東遺跡は、足守川の沖積地に立地する弥生時代後期を中心とした集落遺跡である。今回の調査地は、山陽新幹線から南へ約500m行った水田地で、岡山県教育委員会による主要地方道箕島高松線改良工事に伴う調査(平成9年度)において波止場状造構が検出された地点の約100m西側に位置する。

調査の概要 調査は、工事予定地内に2×2mのトレンチを2ヵ所設定して行った。以下、トレンチごとにその概要を記す。

トレンチ1 水田耕作土の下には、厚さ約40cmの暗灰黄色粘質土があり、この層から弥生土器の細片が1点のみ出土した。その下は灰色系の砂質土が2層続き、地表下約1mでシルト層となる。遺物包含層及び造構は認められなかった。

トレンチ2 水田耕作土の下には、黄褐色系の粘質土が2層認められる。その下は1層砂質土をはさんで、地表下約80cmでシルト層となる。いずれの層からも遺物は出土しておらず、造構も確認されなかった。以上のような状況から、今回確認調査を実施した地点は河道あるいは後背湿地にあたる部分と考えられる。

今回の調査地点のすぐ西側には東村の集落が存在し、この集落が上東遺跡の微高地のひとつとはほぼ重なるであろうことが、平成15年度の確認調査において判明した(本年報20頁)。したがって、今回の調査地は、この微高地が東に向かって落ち込んだ部分と言うことができ、このことは上東遺跡(微高地)の東端部分がこのあたりであることを示している。

(鍵谷)



トレンチ位置図 (S=1/2,500)

V 寄贈図書一覧 (2004.4.1~2005.3.31)

北海道

(財) 北海道埋蔵文化財センター

苫小牧市埋蔵文化財調査センター

札幌市埋蔵文化財センター

千歳市埋蔵文化財センター

(財) アイヌ文化振興・研究推進機構

青森県

青森県埋蔵文化財調査センター

田舎館村教育委員会

岩手県

(財) 岩手県文化振興事業団

北上市立埋蔵文化財センター

(財) 水沢市埋蔵文化財調査センター

盛岡市遺跡の学び館

宮城県

多賀城市埋蔵文化財調査センター

仙台市富沢遺跡保存館

山形県

(財) 山形県埋蔵文化財センター

東北芸術工科大学考古学研究室

福島県

(財) 郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団

(財) いわき市教育文化事業団

磐梯町教育委員会

茨城県

(財) 茨城県教育財團

チブニー 2遺跡 (2)、テエタ第12号・第13号、角知川右岸遺跡、森茅部1遺跡 (2)、石倉2遺跡、対雁2遺跡 (5)、大岩5遺跡、濁川左岸遺跡・A地区 - 柏木川13遺跡、白滝遺跡群IV、白滝遺跡群V、米原4遺跡 (3)・宮戸4遺跡 (3)、徳香堅穴群 (3) 苫小牧東部工業地帯の遺跡群VI、苫小牧東部工業地帯の遺跡群VII、苫小牧東部工業地帯の遺跡群X

H 445 遺跡、H 513 遺跡、H 514 遺跡、H 515 遺跡、N 30 遺跡

トメト川3遺跡における考古学的調査

収蔵品目録4

ネットワーク発掘第18号

史跡垂柳遺跡発掘調査概要報告

ト橋遺跡第2次発掘調査報告書、貝の瀬 I 遺跡発掘調査報告書、館遺跡発掘調査報告書、紀要 X-XIII、玉川向遺跡発掘調査報告書、九重沢遺跡発掘調査報告書、五月館跡・仁昌寺 III 遺跡発掘調査報告書、五輪堂遺跡発掘調査報告書、広岡前遺跡発掘調査報告書、高畠遺跡発掘調査報告書、寺ノ上遺跡発掘調査報告書、寺性寺跡発掘調査報告書、宿遠跡発掘調査報告書、小松 I 遺跡発掘調査報告書、杉の堂遺跡発掘調査報告書、早坂平遺跡発掘調査報告書、大中田遺跡発掘調査報告書、中半入遺跡第2次発掘調査報告書、長谷堂貝塚発掘調査報告書、鳥田 II 遺跡第2~4次発掘調査報告書、鳥田 II 遺跡発掘調査報告書、柳洞 II 遺跡発掘調査報告書、飯岡林崎 II 遺跡発掘調査報告書、平清水 II 遺跡発掘調査報告書、平倉銀音遺跡発掘調査報告書、北の城館跡発掘調査報告書、明後沢遺跡群第16次発掘調査報告書、矢盛遺跡第3次・熊糞 B 遺跡第14次発掘調査報告書、楊生新城跡発掘調査報告書、和野 I 遺跡発掘調査報告書

稻葉 I 遺跡・下江釣子羽場遺跡・菅田遺跡・鳩岡崎上の台遺跡、北上市内試掘調査報告、北上市埋蔵文化財年報(2002年度)、本宿遺跡 II 、立花南遺跡

水沢遺跡群範囲確認調査・平成14年度・、中半入遺跡

遺跡の学び館より創刊号、縄文の彩華・中期の技と美・、陸奥国最前線

高原遺跡、市川橋遺跡、市川橋遺跡・第45次調査報告書、多賀城市内の遺跡1、多賀城市埋蔵文化財調査センター年報・平成15年度。

市民文化財研究員活動報告書8、石器の終わりと鉄器の始まり、仙台市富沢遺跡保存館研究報告7、地底の森ミュージアム年報・第8号。

研究紀要第2号、埋文やまがた第29号

高安窯跡群・歴史遺産研究No.2、歴史遺産研究創刊号

「郡山」地名発祥の地・清水台遺跡・、蝦夷穴横穴墓群・第12・13号横穴出土遺物報告、蝦夷穴横穴墓群・第12・13号横穴調査報告、郡山市埋蔵文化財分布調査報告11、肩張遺跡・大槻向原遺跡(第2次)・守山城跡・第2・3・4・5次調査報告・、清水台遺跡・第24・25次調査報告・、大安場古墳群・第5次発掘調査報告・、折返B遺跡1区・平成15年度市内遺跡試掘調査報告・、代東遺跡

ナギ山遺跡1・柏峯 B 遺跡・岡田古墳群・稻荷宮遺跡・加茂遺跡・宮後遺跡2、宮後遺跡3、犬田神社前遺跡2、出崎遺跡・石間別所遺跡・村松白根遺跡1、大

(財) 君津都市文化財センター	宮内井戸作遺跡発掘調査概報、財团法人印旛郡市文化財センター年報19、出口遺跡（第1・2・3次）、大室仲妻遺跡、大蛇中芝遺跡・大蛇瓜作遺跡、第7回遺跡発表会発表要旨、滝谷遺跡、中沢野馬木戸遺跡（第4次）・獅子穴X遺跡（第2次）、墨木戸遺跡（第2次）、油免遺跡（第2地点）、流谷野馬土手 さきみさらず第22号～第24号、下向山遺跡Ⅱ、岩坂大台遺跡、岩富城跡確認調査報告書、岩富城跡発掘調査報告書、龟塚遺跡2、君津都市文化財センター年報No.21～年報No.23、荒久遺跡（5）、荒久遺跡第8次調査・上笠上谷遺跡第4次調査、首都圏中央連絡自動車道（木更津－東金）埋蔵文化財調査報告書1、松山遺跡、西原遺跡IV、川島遺跡第2地点・大明神原遺跡第2地点、袖ヶ浦惟の森工業団地内埋蔵文化財発掘調査報告書、東天王台遺跡II、文蔵遺跡第2地点 史跡上尾四分寺跡発掘調査報告書、市原市鷺洲遺跡群、市原市山倉古墳群、市原市山田橋大山台遺跡、市原市文化財センター年報・平成13・14年度、市原市片又木遺跡Ⅲ、私たちの文化財特別号、台遺跡B地点、発掘ってなに・縄文土器篇・別冊、平成15年度市原市内遺跡発掘調査報告書、埋いちはら14かのへ塚遺跡、キサキ遺跡2・3地点、加止里第9号、事業報告書Ⅲ、神崎カントリークラブ埋蔵文化財調査報告書Ⅱ、中里西口遺跡II、津宮遺跡群、法願塚遺跡4地点
(財) 市原市文化財センター	館山市長須賀条里制遺跡、北条条里制遺跡、空港南部工業団地埋蔵文化財調査報告書3、君津市粟倉跡、君津市山川淀野塚、建設センター・保全専務所用地内埋蔵文化財調査報告書、研究連絡誌第66号、広域営農団地農道整備事業九十九里地区埋蔵文化財調査報告書、三十年の歩み、松崎地区内陸上用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書2、千葉台ニュータウンX、千駄堀風吹跡、千葉市鶴音塚遺跡、地蔵山遺跡（3）、千葉東南部ニュータウン28～30、船橋印西線埋蔵文化財調査報告書2、船橋印西線埋蔵文化財調査報告書3、富津市東大和田城山砦跡、房総の文化財 vol.34～vol.35
(財) 千葉市教育振興財團	千葉市川戸遺跡、千葉市鶴の森遺跡群I、千葉市台畠遺跡、千葉市猪鼻城跡、皿池東遺跡、千葉市半和公園遺跡群I、千葉市平和公園遺跡群II、千葉市坊屋敷遺跡II、沢遺跡、下ノ切遺跡、乙払込遺跡、長谷下遺跡、居寒台遺跡、都町山下遺跡、居寒台遺跡、堀之内城跡、免谷津遺跡、志保多遺跡、埋蔵文化財調査センター年報16
野田市教育委員会	岩名立山遺跡、平成14年度野田市内遺跡発掘調査報告、平成15年度野田市内遺跡発掘調査報告
芝山町教育委員会	平成15年度芝山町内遺跡発掘調査報告書
国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館研究年報12、国立歴史民俗博物館研究報告第109集～第112集、第114集～第115集、第117集～第120集、佐倉城跡発掘調査報告
市立市川考古博物館	市立市川考古博物館年報30号～第31号
新橋市飛ノ台史料公園博物館	飛ノ台史料公園博物館紀要刊行号
山武考古学研究所	西野遺跡
(財) 東京都水辺学習文化財団	たまのよこやま No.60～No.62、宇和島藩伊達家上原敷、下柳沢遺跡第5次調査、資料目録14、多摩ニュータウン遺跡、多摩ニュータウン遺跡-No.192遺跡、多摩ニュータウン遺跡-No.196・197・332・351・932遺跡、多摩ニュータウン遺跡-No.237・962遺跡、多摩ニュータウン遺跡-No.520遺跡（1）、多摩ニュータウン遺跡-No.520遺跡（2）、多摩ニュータウン遺跡-No.920遺跡、多摩のむかしを訪ねて、東京都埋蔵文化財センター研究論集X X、東京都埋蔵文化財センター年報24、南池袋遺跡、板橋区坂下三丁目遺跡、武蔵国府関連遺跡、武蔵国府関連遺跡
宮内庁	書陵部記要第55号、平成8年度陵墓関係調査報告ほか
北区教育委員会	西ヶ原貝塚IV、南橋遺跡IV
文化庁	行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）

葛飾区教育委員会 八王子市教育委員会 調布市郷土博物館	葛西城XXIII、葛西城XXIV、正福寺遺跡III 西中野遺跡発掘調査報告書、打越小サズ遺跡II、美山町赤根遺跡(D地区) 下石原遺跡、下右原遺跡、第42地点の調査、下石原遺跡・第43地点の調査、 郷土博物館だより No.65～No.66、宿遺跡・第6地点の調査、宿遺跡・第8地点 の調査、上布田遺跡、中耕地遺跡、調布の文化財第35号～第36号、東京都調布市埋蔵文化財年報・平成14年度、東京都調布市埋蔵文化財年報・平成15年度、 掌山遺跡、宮上見町遺跡、北浦遺跡、緑ヶ丘遺跡
港区立澁郷土資料館	越後糸魚川藩松平家臣敷跡遺跡発掘調査報告書、港区埋蔵文化財調査年報1、 承教寺・承教寺門前町屋跡遺跡発掘調査報告書、麻布笄橋地区武家屋敷跡遺跡 発掘調査報告書
青山学院大学史学研究室 早稲田大学	青山史学 第二十二号 古代112号～117号
神奈川県	
藤沢市教育委員会 守珀町教育委員会	藤沢市文化財調査報告書第39集 尾舎塚遺跡発掘調査報告書
富山県	
(財)富山県文化振興財團 富山県埋蔵文化財センター	古代のかたりべ、黒河尺目遺跡、黒川中老田遺跡発掘調査報告書、道場I・II 遺跡発掘調査報告 材を活かす、富山県埋蔵文化財センター年報・平成15年度、埋文とやま第86 号～第89号
魚津市教育委員会 砺波市教育委員会 小矢郡市教育委員会 大島町教育委員会	魚津市立博物館紀要第6号、松倉城墨群発掘調査報告Ⅲ 久泉遺跡発掘調査報告I、増山城跡Ⅵ さくらまちNEWS、桜町造跡発掘調査報告書 繩文遺構編I・中世編II 小林遺跡
石川県	
金沢市埋蔵文化財センター	久昌寺遺跡、堅田B遺跡II(本文・遺物編)、広坂遺跡(1丁II) I(測量図編)、 市内城館跡調査報告書、若松遺跡、昭和町遺跡III、神谷内古墳群C支群、畠田 B遺跡、畠田C遺跡、畠田・守中遺跡、大桑ジョウデン遺跡II、平成15年度金 沢市埋蔵文化財調査年報
金沢大学考古学研究室	金沢大学考古学紀要第27号
滋賀県	
福井県埋蔵文化財調査センター	右近次郎西川遺跡、外街道遺跡、興道寺遺跡、今市遺跡(豆田地区II)、志出神 田遺跡、女形谷長戻遺跡、小幡津遺跡、小倉石町遺跡、城山古墳群、常安王神 の森遺跡、森谷古墳群、西長田遺跡、袖高林古墳群、大関西遺跡、大関東遺跡、 大味上遺跡、大味地区遺跡群、中丁遺跡、山鳥元山谷遺跡、東下野江口遺跡、 東荒井遺跡、年報13～年報16、福井城跡、糞置遺跡、本郷北遺跡
山梨県	
山梨県埋蔵文化財センター	研究紀要20、原町農業高校前(下原)遺跡(第3次)、甲府城下町遺跡、甲府城下町 遺跡(日向町遺跡第2地点)、守部村附第9・中西第3遺跡、中沢遺跡、武家遺 跡、年報19、百々遺跡2・4、百々遺跡3・5、北中原遺跡、埋蔵錢貨出土遺跡群 詳細分布調査報告書、埋文やまなし第15号～第17号
長野県	
(財)長野県埋蔵文化財センター 長野市埋蔵文化財センター	貫ノ木遺跡、照月台遺跡、崇賞寮科ダム埋蔵文化財発掘調査報告書、原林遺跡、 国営アルプスあづみの公園埋蔵文化財発掘調査報告書3、川久保遺跡、長野県 埋蔵文化財センター年報19～20、離山遺跡 四ッ屋遺跡II、篠ノ井南条遺跡、辰巳池遺跡、本郷前遺跡、浅川端遺跡(2)、 差出遺跡、三合塚西古墳、石川条里遺跡(10)、長野市埋蔵文化財センター所報 No.15、天神木遺跡、桶爪遺跡、樺現堂遺跡、八幡田沖遺跡 夏焼遺跡、御所平遺跡、御所平北遺跡、坂平、大花北遺跡 長野県立歴史館たより vol.39～vol.41

■岐阜県

各務原市埋蔵文化財調査センター

(財)岐阜市教育文化振興事業団

(財)岐阜県教育文化財団

上岐市美濃陶磁歴史館

■静岡県

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡市立登呂博物館

■愛知県

(財)瀬戸市埋蔵文化財センター

名古屋市見晴台考古資料館

豊田市郷土資料館

名古屋大学考古学研究室

■三重県

三重県埋蔵文化財センター

津市埋蔵文化財センター

上野市教育委員会

鈴野町教育委員会

上野市遺跡調査会

二見町教育委員会

■滋賀県

滋賀県埋蔵文化財センター

(財)滋賀県文化財保護協会

能登川町埋蔵文化財センター

(財)栗東市文化体育振興事業団

かかみがはらの堀文第12号、各務原市文化財年報第14号、承国寺遺跡、承国寺遺跡発掘調査報告書、大牧1号墳発掘調査報告書、大牧古墳群、徳山更木陣屋跡、徳山更木陣屋跡発掘調査報告書

平成12・14・15年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書

きずな第40号～第42号、重竹遺跡、上西田遺跡、上岩野遺跡、平成15年度年報

織部様式の成立と展開

ミヨウガ原遺跡他、愛鷹山を駆け巡った旧石器人、掛川市大和田・平島の遺跡、蒲ヶ谷原遺跡、大溝遺跡、古峠遺跡、水掛渡D古墳群、坂口千頭ヶ谷古墳・御陣場古墳、権現様御陣場遺跡、研究所報No.107～No.110、古代との対話、恒武東覚遺跡、守山古墳群、小鹿杉本塚坪遺跡Ⅲ、上松沢平遺跡、森町蛭塚の遺跡、静岡県埋蔵文化財調査研究所年報20、石畳I遺跡、設立20周年記念論文集、大原敷C古墳群、大塚敷1号窓、田頭山古墳群、白岩下遺跡

静岡市立登呂博物館館報14

江戸時代の瀬戸・美濃窯、平成15年度瀬戸市埋蔵文化財センター年報

金山北遺跡、金山北遺跡第一次発掘調査報告書、見晴台教室03、高藏遺跡第44次発掘調査の概要、高藏遺跡第45次発掘調査の概要、千音寺遺跡発掘調査報告書、朝日遺跡第13次発掘調査の概要、上に記する和銅、埋蔵文化財発掘調査報告書49、埋蔵文化財発掘調査報告書50、名古屋市見晴台考古資料館年報21、名古屋市見晴台考古資料館研究紀要第6号、名古屋城三の丸・平成12年度NTT電話工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書。

豊田市郷土資料館だよりNo.47～No.49

名古屋大学文学部研究集149

みえNo.37～No.38、一般国道23号中勢道路 埋蔵文化財発掘調査概報16、河曲の遺跡、丸野・中谷遺跡発掘調査報告、筋達遺跡発掘調査報告・第1分冊、金剛坂里中遺跡発掘調査報告、高ノ御前遺跡(第2次)発掘調査報告、山村遺跡(第2次)発掘調査報告、庄原田遺跡発掘調査報告、勢和村水銀採掘坑跡群発掘調査報告、川島遺跡(第2次)ほか発掘調査報告、替田遺跡(第4次)発掘調査報告、辻子遺跡発掘調査報告、平成15年度：三重県埋蔵文化財年報、北門遺跡(第3次)発掘調査報告、茂福城跡、里ノ内遺跡Ⅲ発掘調査報告、渠瀬遺跡発掘調査報告

埋文センターニュース第19号～第20号

上野市埋蔵文化財年報10

一般国道23号中勢道路赤部遺跡発掘調査概報、幡野町の文化財、焼野遺跡・見行谷石切場、川北切船遺跡発掘調査報告書、犬白遺跡発掘調査概要、柏木遺跡発掘調査報告

十王下遺跡(2次)発掘調査報告、出上I遺跡発掘調査報告、森脇遺跡(3次)・城田発掘調査報告、法華堂西館跡発掘調査報告

安慶寺跡、豆石山中世墓群、豆石山経塚群・五峰山2号墳

滋賀埋文ニュースNo.286号～No.298号

近江の懸仏(下)、近江大津宮總繼遺跡、湖東町の登録文化財、弥生時代の木製、滋賀文化財だよりNo.288～No.294

能登川町埋蔵文化財調査報告書第56集～第57集

1987年度栗東市埋蔵文化財発掘調査資料集、はくつ2003、栗東町埋蔵文化財発掘調査2002年度年報、古代の装飾品からみた大陸文化、物をつくっていた遺跡

滋賀県教育委員会	F下反田遺跡、宮前遺跡、近江国府跡Ⅲ、高田館遺跡、中畠遺跡Ⅱ 錦織遺跡発掘調査概要報告書、大津市埋蔵文化財調査年報・平成14(2002)年度・坂町遺跡5
大津市教育委員会	日野町遺跡発掘調査報告書第18集～第20集
長浜市教育委員会	おおてみち第48号～第50号
日野町教育委員会	大津歴博だより No.54～No.57
滋賀県立安土城考古博物館	うみんと第31号～第33号、糸を紡いで布を織る
大津市歴史博物館	人間文化第15号～第16号
滋賀県立琵琶湖博物館	佐加太第19号～第21号
滋賀県立大学考古学研究室	
坂田郡社会教育研究会文化財部会	
京都府	
(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報第91号～第94号
(財) 京都市埋蔵文化財研究所	研究紀要第9号、史跡旧二条離宮(二条城)、上ノ段町遺跡、長岡京右京二条四坊…八、九町跡、上里遺跡、長岡京右京二条四坊一町跡、上里遺跡、鳥羽離宮跡、鳥羽離宮跡I、特別史跡・特別名勝 鹿苑寺(金閣寺)庭園、伏見城跡、平安京右京三条二坊十五町跡、平安京左京北辺三坊四町跡、平成13年度京都市埋蔵文化財調査概要、平成14年度京都市埋蔵文化財調査概要
京都市埋蔵文化財調査センター	京都市内遺跡試掘調査概報、平成15年度～、京都市内遺跡発掘調査概報、平成15年度～、京都市内遺跡立会調査概報、平成15年度～
(財) 向日市埋蔵文化財センター	長岡京跡ほか、都城16
綾部市教育委員会	綾部市文化財調査報告第29集・第33集～第34集
園部文化博物館	くらしの中の着物・明治・大正・昭和・、園部の仏教文化・街道と古寺紀行・、園部町歴史散策マップ、園部文化博物館報第4号～第5号、季刊博物館だより第8号～第11号
京都市考古資料館	平安京発掘と杉山信三博士
大阪府	
(財) 八尾市文化財調査研究会	財團法人八尾市文化財調査研究会報告77～78、洪川廃寺、平成15年度 (財) 八尾市文化財調査研究会事業報告
(財) 枚方市文化財研究調査会	ひらかた文化財だより第57号～第62号、九頭神遺跡II、枚方市文化財年報25
高槻市立埋蔵文化財調査センター	史跡・今城塚占墳・平成14年度・第6次規模確認調査・
堺市立埋蔵文化財センター	「古代人たちが見た鳥」展
泉南市埋蔵文化財センター	古代史博物館平成15年度船団
(財) 大阪府文化財センター	「大坂城」・秀吉の大坂城縄張りをさぐる、「難波宮」・宮城北辺をさぐる・、瓜生堂遺跡1、瓜生堂遺跡3、瓜生堂遺跡の最新研究、久宝寺遺跡の最新研究、久宝寺遺跡・竪窓地区発掘調査報告書VI、高宮遺跡・高宮遺跡(その2)、諸良郡条理遺跡(その3)、小阪古遺跡(その2)、慈持寺遺跡II、大阪文化財研究第25号、大文研通報 No.27～No.28、湊遺跡他II、民家集落ふるさとだより第23号～第24号
豊中市教育委員会	小曾根遺跡・第7次発掘調査報告書・、文化財ニュース農中 No.31～No.32、豊中市埋蔵文化財発掘調査概要・平成15(2003)年度・、枚方市埋蔵文化財発掘調査概要2003
東大阪市教育委員会	鬼虎川遺跡第53次発掘調査報告・鬼虎川遺跡第55次発掘調査報告・東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告・平成15年度・、東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報・平成15年度・
羽曳野市教育委員会	羽曳野市内遺跡調査報告書・平成5年度・、古市遺跡群X X IV
富田林市教育委員会	新堂廃寺跡・オガジ池瓦窯阿戸・、お亀古石塙・、西板持遺跡I・、中野遺跡発掘調査概要録・、甘山南古墳・、畑ヶ田南遺跡I
貝塚市教育委員会	貝塚市の史跡と文化財・、貝塚市遺跡群発掘調査概要26・、貝塚市内に残る仏教絵画・、貝塚寺内の武士と町人
泉佐野市教育委員会	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要第45号・、日根荘遺跡詳細分布調査概要・、平成15年度泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要

泉南市教育委員会	新伝寺遺跡91-1区・幡代遺跡03-3区発掘調査報告書、泉南市遺跡群発掘調査報告書XXI
吹田市教育委員会	紫金山公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書、吹田の石造物・寺院編、吹田操車場遺跡、平成15年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
大阪府立弥生文化博物館 大阪府立近つ飛鳥博物館	大和王権と渡来人、弥生のころの北海道 古墳から奈良時代墳墓へ、今來才伎・古墳・飛鳥の渡来人、匂夏秀陶 関西編、博物館だより、アスカディア・古墳の森 vol20-
吹田市立博物館	ことのしらべ・琵琶法師から当道座へ、吹田市文化財ニュースNo.25、吹田市立博物館館報4、千里丘陵の須恵器・古代のハイテク工場、博物館だよりNo.22～No.23
大阪府立狛山池博物館 八尾市立歴史民俗資料館	近世を拓いた土木技術、大阪府立狛山池博物館研究報告1 研究紀要第15号、八尾市立歴史民俗資料館報・平成14年度・
大阪大学考古学研究室 大阪大学埋蔵文化財調査室	西日本における前方後円墳消滅過程の比較研究 大阪大学埋蔵文化財調査室年報1
兵庫県	
兵庫県教育厅埋蔵文化財調査事務所	おぎわら遺跡、ひょうごの遺跡第51号～第54号、喜住西遺跡、五反田遺跡、戸田遺跡、三原遺跡、畠田遺跡、七日市遺跡(Ⅲ)、七日市遺跡(Ⅲ)、宿原寺ノ下遺跡、大谷遺跡、大田町遺跡、筒井遺跡、庵の谷遺跡、大寺山古墳群・小田池遺跡、兵庫県埋蔵文化財研究紀要第3号、兵庫津遺跡II・平成14年度年報 御影郷波がえし蔵、住吉宮町遺跡第37次発掘調査報告書、小路大町遺跡第4次調査発掘調査報告書、上沢遺跡Ⅲ、西求女塚古墳、二宮遺跡発掘調査報告書、平成13年度神戸市埋蔵文化財年報、本庄村遺跡第9次調査発掘調査報告書 岩ヶ平刻印群(第12次)発掘調査報告書、月若遺跡(第67地点)、月若遺跡(第71地点)発掘調査報告書、月若遺跡発掘調査報告書、寺田遺跡(第128地点)発掘調査報告書、寺田遺跡発掘調査報告書、浜津・藤ヶ谷古墓、前田遺跡(第20地点)発掘調査概要報告書、津知遺跡(第181地点)発掘調査報告書、津知遺跡(第198・222地点)発掘調査報告書、津知遺跡第142地点はか発掘調査報告書、八十塚古墳群の研究、六条遺跡発掘調査報告書 上菅牛遺跡、東有年・沖田遺跡、有年原・北山遺跡 清水遺跡、龍野の文化財
神戸市教育委員会	尼崎市埋蔵文化財遺跡分布地図及び手引き・平成16年版・、尼崎市埋蔵文化財調査年報平成7年度(5)、平成12・13年度尼崎市内遺跡復旧・復興事業に伴う発掘調査
芦屋市教育委員会	城郭研究室年報vol.13 加古川市埋蔵文化財調査集報Ⅱ、文化財ニュース No.47 埋蔵文化財調査年報・2002年度・
赤穂市教育委員会 龍野市教育委員会 尼崎市教育委員会	中町の遺跡Ⅰ、中町の遺跡Ⅱ、東山野際1・2号墳、牧野・大日遺跡、牧野・町西遺跡Ⅱ 播磨鶴莊 現況調査報告総集編 平成14年度埋蔵文化財調査年報、平成6年度埋蔵文化財調査年報 研究紀要第20号、神戸市立博物館年報 No.19 忠臣蔵の浮世絵 『風土記』を楽しむ、錦報15 大手前大学史学研究所紀要第3号～第4号
奈良県	
桜井市立埋蔵文化財センター	桜井市の小学校の発掘調査、桜井市内埋蔵文化財2000年度発掘調査報告書1、桜井市内埋蔵文化財2002年度発掘調査報告書2、桜井市内埋蔵文化財2003年度発掘調査報告書1、城島遺跡・これまでの調査とその成果・ 古代の官衙遺跡Ⅱ・遺物・遺跡編・、埋蔵文化財ニュース No.114～ No.117 平成15年度櫛原市埋蔵文化財発掘調査概報

(財) 元興寺文化財研究所	解体修理で下ろされた建築部材の基礎的研究、元興寺文化財研究 No.84～No.85、元興寺文化財研究所研究報告2003、筑後東部地区遺跡群Ⅱ、中の池遺跡、保存処理後遺物の経年調査 古事記8種
天理大学考古学研究室 天理大学附属天理参考館 奈良大学文学部文化財学科	大理参考館報第17号、絵野照武氏旧蔵資料目録4 文化財学報第二十二集
和歌山県	
(財) 和歌山県文化財センター	根来寺坊院跡、西庄遺跡、西田井遺跡発掘調査報告書、藤倉城跡・川間遺跡、藤並地区遺跡発掘調査報告書、徳藏地区遺跡、尼ヶ辻遺跡・荒田遺跡発掘調査報告書、風車7～8、和歌山県文化財センター年報2001～年報2003
鳥取県	
(財) 鳥取県教育文化財団	笠見第3遺跡、久義峰北遺跡、蛭谷遺跡、岩本遺跡、三林遺跡、井岡地頭遺跡、松谷中峰遺跡、別所中峯遺跡、青谷上寺地遺跡7、茶畠第1遺跡、押平尾無遺跡、古御堂笠尾山遺跡、古御堂新林遺跡、茶畠六反田遺跡、中尾第1遺跡、中浜遺跡、八橋第8・9遺跡、名和乙ヶ谷遺跡、名和小谷遺跡
(財) 鳥取市文化財団	横枕古墳群Ⅱ、下味野古墳群Ⅱ、下味野童子山遺跡、古郡家遺跡、山ヶ鼻遺跡Ⅲ、篠田古墳群、平成14年度鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書、平成15年度鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書、本高円ノ前遺跡、倭文所在城跡、倭文古墳群むきばんだ弥生大よりNo.5、妻木晚田遺跡発掘調査研究年報2003 掘り出された智頭の歴史、智頭段ハナ遺跡、町内遺跡発掘調査報告書 押平弘法堂遺跡、押平弘法堂遺跡、押平天王屋敷遺跡、茶畠山道遺跡、名和町内遺跡発掘調査報告書
島根県	
島根県埋蔵文化財調査センター	オロチのいぶき特別号(2)、ドキ土器まいぶん No.25～No.28、家ノ脇II遺跡、原田遺跡1区・原田遺跡4区、五反配遺跡、史跡出雲国府跡-2、青銅器の同梱関係調査報告書I・武器形青銅器、青木遺跡(中近世編)、川津バイパス発掘大よりNo.1、大津町北遺跡・中野清水遺跡、中野美保遺跡、東林木バイパス発掘調査概報、埋蔵文化財調査センター年報12、楓ヶ崎遺跡 古代出雲における玉作の研究I、出雲地方における玉體・瑪瑙製石器の研究、松江市東部における古墳の調査、島根県発掘調査一覧第1集 石田遺跡発掘調査報告書、埋蔵文化財課年報Ⅱ 角田遺跡第3次発掘調査報告書、出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第14集、上塙治塙山古墳 中小路遺跡 八雲立つ風土記の丘 No.177～No.179
岡山県	
岡山県古代吉備文化財センター	所報告書第36号～第37号、久田原遺跡・久田原古墳群、山ノ奥遺跡・池東・瀬田遺跡、小坂向城山城跡・ヒロダン・小坂向遺跡・上神代孤穴遺跡・京坊たたら遺跡、新堀遺跡・郷ノ溝遺跡・仏生田遺跡・掛無堂遺跡・川入遺跡・中撫川遺跡、津島遺跡5・津島遺跡 発掘調査40年のあゆみ・田井ちご遺跡・八ヶ奥遺跡・八ヶ奥裂鉄遺跡・岡遺跡・小坂古墳群・才地古墳群・才地遺跡・隨ヶ鼻遺跡・百間川原尾島遺跡6 津山弥生の里第11号、瀬坂地区試掘調査報告書 ハガ遺跡、岡山市埋蔵文化財センター年報3、百間川沢田遺跡 岡山県埋蔵文化財報告34 等岡の文化財 高越遺跡 総社市埋蔵文化財調査年報13(平成14年度)、総社市埋蔵文化財発掘調査報告17 岡山学こと始め第3号
津山弥生の里文化財センター 岡山市埋蔵文化財センター 岡山県教育委員会 笠岡市教育委員会 井原市教育委員会 総社市教育委員会	
デジタルミュージアム開設準備室	

邑久町教育委員会 長船町教育委員会 山陽町教育委員会 落合町教育委員会 矢掛町教育委員会 瀬戸町教育委員会 美作町教育委員会 熊山町教育委員会 津山郷土博物館 倉敷市立自然史博物館 岡山県立美術館 岡山県立吉備路郷土館 和気町歴史民俗資料館 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 岡山理科大学	熊山田遺跡 長船町関係歴史統計資料集 森山古墳・岡宮山古墳、正崎2号墳 郡遺跡・須の内遺跡・古市場遺跡 矢掛町歴史年表 万富東大寺瓦窯跡保存整備基本構想(基本計画)書 美作町遺跡地図 猿喰池製鉄遺跡 津山松平藩邸奉行日記十二、博物館だより No.40～No.43 倉敷市立自然史博物館研究報告第19号、倉敷市立自然史博物館報12 美術館ニュース No.65～No.67 吉備路郷土館だより No.28 旧大國家住宅調査研究報告書 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第32号 自然科学研究所研究報告第29号、岡山理科大学紀要第39号A自然科学、岡山理科大学紀要第39号B人文・社会科学、吉井川を科学する、旭川・流域を科学する Part1-、吉井川・流域を科学する Part2- 岡山市立オリエント美術館研究紀要17 新修倉敷市史第6巻「近代(下)」 調査団ニュース第23号
広島県 (財) 広島市文化財団	可部守山1号遺跡、研究連絡誌Ⅱ、史跡広島城跡本丸遺構保存状況確認調査報告、史跡中小田古墳群遺構状況確認調査報告 ひろしまの遺跡第95号
(財) 広島県教育事業団 三次市教育委員会 庄原市教育委員会	野福南第8～11号古墳 広島県史跡唐櫃古墳整備事業報告書、庄原市農業支援施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 歴風第38号
広島県立歴史民俗資料館 広島大学環境保全委員会埋蔵文化財調査室	広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ、広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報XⅧ
山口県 山口県埋蔵文化財センター	吉永遺跡、鄭遺跡、上太田遺跡・市の瀬遺跡・南ヶ畑遺跡、上領遺跡、鐵屋遺跡I、陶けん第17号、日韓交流史理解促進事業報告書、萩城跡(外堀地区)Ⅱ、武久川下流域条里遺跡 あやらぎ No.111、下関市立考古博物館年報9、研究紀要第8号、定住のはじまり -一万年前の社会 - 山口大学構内遺跡調査研究年報XⅥ・XⅦ
下関市立考古博物館 山口大学埋蔵文化財資料館	真宋第4号、石井城ノ内遺跡 石井曾我団地地区、大柿遺跡Ⅱ、東原遺跡、野口遺跡
徳島県 (財) 徳島県埋蔵文化財センター	いにしえの讃岐第40号～44号、空港跡地遺跡Ⅶ、空港跡地遺跡Ⅷ、財團法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅳ、成重遺跡Ⅰ、川両遺跡、川北遺跡、三殿出入口遺跡、善門池西遺跡、大山遺跡、中谷遺跡、楠谷遺跡、谷遺跡、中間東井坪遺跡、正箱遺跡、八幡遺跡、中森遺跡、林・坊城遺跡Ⅱ・東山崎・水田遺跡Ⅱ、田村遺跡、賀田岡下遺跡、浜ノ町遺跡 奥の坊遺跡群Ⅱ、久本古墳、高松市内遺跡発掘調査概報、高松城跡(松平人贈家上屋敷跡)、四国横断自動車道開通特別用地対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、漆谷古墳群、宗高坊城遺跡、天満・宮西遺跡・上西原遺跡、東中筋遺跡
高松市教育委員会	

丸亀市教育委員会	中の池遺跡、平成15年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書
三木町教育委員会	山大寺池西丘上2・3号墳・南天枝遺跡・田中南原遺跡・田中砂古遺跡
香川県歴史博物館	香川県歴史博物館ニュース vol.19・vol.21
■愛媛県 (財) 愛媛県埋蔵文化財調査センター	愛比完・平成14年度年報・伊予神社II遺跡・紀要愛比完第4号・星原市東遺跡・星原市遺跡・善応寺畦地遺跡・大相院遺跡・別府遺跡・湯榮城だより5号～6号・道後鷺谷遺跡2次・南斎院土居北遺跡・南江戸くじゅ目遺跡(2次調査)・矢田八反坪遺跡3次
(財) 松山市生涯学習振興財団	桑原遺跡5次調査地・松山市埋蔵文化財調査年報15・東山古墳群II・北久米遺跡・北久米遺跡2次調査地・南久米町遺跡4次調査地・米住・久米地区的遺跡V
今治市教育委員会	鄭新聖敷佛傳遺跡・高橋山崎遺跡I・市内遺跡試掘確認調査報告書XVII・市内遺跡試掘確認調査報告書XVIII
愛媛大学考古学研究室	西南四国一九州間の交流に関する考古学的研究
■高知県 (財) 高知県文化財団	ジョウマン遺跡・尼徳遺跡群V・尼徳遺跡群VI・京間遺跡・高知県埋蔵文化財センター年報13・史跡・高知城跡・城ノ台城跡・西分増井遺跡II・千本杉遺跡・田村遺跡群II・馬場末遺跡・不破遺跡 高知県埋蔵文化財年報1・埋文こうち第17号 改田神母遺跡・後神母地区・トカリ地区・旧予岳寺跡・予岳遺跡ツエガ谷地区・林ノ谷古窓跡発掘調査報告書・林田シタノダ遺跡I・II・林田シタノダ遺跡II根々崎五反地遺跡・カマガ瀬遺跡はか
高知県教育委員会	岡農風日第52号～第53号・高知県立歴史民俗資料館年報No.13
土佐山田町教育委員会	
庵川町教育委員会	
高知県立歴史民俗資料館	
■滋賀県 福岡市埋蔵文化財センター	福岡市埋蔵文化財センター年報第22号～第23号
小郡市埋蔵文化財調査センター	井上小松山遺跡1・2・井上南内原遺跡2・干渴二ツ塚遺跡・三沢北中尾遺跡6・7・三沢北中尾遺跡第1地点環濠塁・上岩田遺跡11・12区・大板井遺跡XVI・XVII・大保龍頭遺跡6・埋蔵文化財調査報告書4・力武前畠遺跡2 まいぶん久留米第3号・円形野外講堂・久留米市埋蔵文化財調査集報VI・筑後國府跡・碇遺跡II・二木本遺跡群I・日渡遺跡群II・平成15年度久留米市内遺跡群
久留米市埋蔵文化財センター	
(財) 北九州市芸術文化振興財団	横代丸ノ内遺跡2次・横代西ヶ遺跡・蒲生寺中遺跡2・蒲生大畔遺跡1・丸ノ内遺跡・長野コイトヲ遺跡・長野尾登遺跡・紀要-第18号-・朽網南塚遺跡3・朽網南塚遺跡4・三郎丸遺跡第1地点・寺町遺跡3・宗林寺墓地跡・小倉城新馬場跡・小倉城代米御跡IV・上葛原遺跡・上清水遺跡VII区・カキ遺跡3点・真光寺墓地跡・諏訪遺跡・中貴ミカシキ遺跡・長野コイトヲ遺跡3次・長野尾登遺跡・長野角屋敷遺跡・長野尾登遺跡第3地点3・埋蔵文化財調査室年報20 大的遺跡II・東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-1-・壹畠遺跡II
福岡県教育委員会	井尻B遺跡12・井尻B遺跡13・羽根戸原C遺跡群IV・下山門乙女田3・橋一本丁II遺跡4・元岡・桑原遺跡群3・原遺跡11・高爐遺跡・三宅庵守2・次郎丸高石1・七隈古墳群・席田大谷遺跡群5・大橋E遺跡6・東油山古墳群・藤崎遺跡15・那珂35・那珂36・梅林遺跡7・梅林遺跡第4次調査・梅林遺跡第5次調査・博多87・博多97・博多98・博多99・博多100・箱崎17・箱崎18・箱崎21・飯倉B遺跡・比恵33・比恵34・比恵35・比恵36・比恵遺跡群37・鶴井川B遺跡群・福岡市埋蔵文化財年報vol.17・野芥4・弥永原遺跡5
福岡市教育委員会	牛頭本堂遺跡群I・牛頭本堂遺跡群II・牛頭野添遺跡群I・御笠の森遺跡I・松葉園遺跡I・大野城市的文化財第35集～第36集
大野城市教育委員会	原田第1・2・40・41号墓地・中巻・若江天神前遺跡
筑紫野市教育委員会	御陵遺跡・春日市埋蔵文化財年報11・仁王手遺跡A地点・大南遺跡B地点
春日市教育委員会	
前原市教育委員会	
津屋崎町教育委員会	三泰・井原遺跡IV・文化財ニュースvol.1 在自西ノ後遺跡II・新原・奴山古墳群II・津屋崎古墳群I・津屋崎町内遺跡、

北九州市立自然史・歴史博物館 九州歴史資料館	奴山伏原遺跡 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B類歴史第1号 九州歴史資料館研究論集29、九州歴史資料館年報・平成15年度~、九歴だより No.20
芦屋町歴史民俗資料館 芦屋歴史の里 歴史民俗資料館 福岡大学古学研究室	芦屋町歴史民俗資料館年報第3号~第5号 山鹿貝塚、千光院文書、長井原Ⅱ遺跡 福岡大学考古学研究室研究調査報告第3冊
佐賀市教育委員会	牛馬遺跡、牛馬二本松遺跡、佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書・2001年度~、上九郎遺跡・栗郷丸五本柳遺跡、上和泉遺跡7区、徳永遺跡14区、徳水遺跡15・18区、徳水遺跡22区、徳永遺跡8区、平尾二本杉遺跡Ⅲ、平尾二本杉遺跡Ⅳ、潤木本松遺跡・石土井遺跡・上九郎遺跡 菜畑内田遺跡(4)、枝去木山中遺跡(Ⅲ)、枝去木山中遺跡(IV)、天神ノ元遺跡(2)、天神ノ元遺跡(3)、唐津市内遺跡確認調査(20)、徳蔵谷遺跡(5) 佐賀県立博物館・美術館報 No.131 ~ No.132 佐賀城本丸歴史館展示案内
唐津市教育委員会	鷹島海底遺跡X
佐賀県立博物館 佐賀県立佐賀城本丸歴史館	カワラガマ遺跡、原遺跡、天念寺遺跡円重坊地区1次地点、富貴寺遺跡 下郡横穴墓群、玉沢地区条里跡第6次発掘調査報告書・大分市内遺跡確認調査概報・2002年度~、大分市文化財だより2003年度号・大分市埋蔵文化財調査年報 vol.11・vol.13、大友府内6、府内域、城下町遺跡・第14次発掘調査概報・ 三光村の遺跡 大木遺跡 亀石山遺跡2 おおいた歴博 No.16 ~ No.17
大分県立歴史博物館	宮崎県埋蔵文化財センター年報第8号 水迫第1号遺跡、高岡町内遺跡Ⅹ、茶屋原遺跡・久木野遺跡、移佐城跡 本野原遺跡、本野原遺跡1
鹿児島県立埋蔵文化財センター 高岡町教育委員会 田野町教育委員会	埋文だより第35号~第37号 追田遺跡・森田遺跡 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報17~18
垂水市教育委員会 鹿児島大学埋蔵文化財調査室	全国埋蔵文化財法人連絡協議会 カルナベイト No.22 ~ No.24 たたら 日本古来の製鉄 古代を考える 吉備 考古資料大綱 文化遺産の世界13号~世界16号 小野田遺跡発掘調査報告書 ミュージアムワークス vol.15 ~ vol.16
吉川弘文館 小学館 国際航業 四門 京都科学	



紙 質 表紙：サンマット 160kg (PP 張り)

本文：ニューエイジ 70kg

折込：上質紙 70kg

D T P Mac OS 10.2.3 Adobe InDesign 2.0 Adobe Photoshop7.0

使用フォント モリサワ OpenType フォント

(リュウミン L-KL・中ゴシック BBB・太ミン A101・
太ゴシック B101・見出ゴシック MB31・じゅん 101)

製 本 無線綴じ

倉敷埋蔵文化財センター年報10 —平成15・16年度—

平成18年1月31日印刷発行

発 行 倉敷市教育委員会

編 集 倉敷埋蔵文化財センター

〒712-8046 倉敷市福田町古新田940番地

Tel.086-454-0600

The Annual Report
Of
Kurashiki Archaeological Center

Volume10 2003・2004



Kurashiki
Archaeological Center

January 2006